市原市西野遺跡

－国道道路改築委託埋蔵文化財調査報告書Ⅰ－

平成17年３月

千葉県県土整備部

財団法人　千葉県文化財センター

市原市西野遺跡
（いちはらしにしのいせき）

－国道道路改築委託埋蔵文化財調査報告書Ⅰ－

序　文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第523集として、千葉県県土整備部の国道道路改築委託（西野遺跡）に伴って実施した市原市西野遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、中世の井戸跡や陶器が出土するなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が、学術資料として、また埋蔵文化財の保護と理解のための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成17年３月25日

財団法人千葉県文化財センター
理事長　清水新次

凡　例

1　本書は，千葉県県土整備部による「国道道路改築委託（西野遺跡埋蔵文化財発掘調査）」に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書に収録した遺跡は，千葉県市原市西野字中村439－1ほかに所在する西野遺跡（遺跡コード219-030）である。

3　発掘調査から報告書作成にいたる業務は，千葉県県土整備部の委託を受け，財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4　発掘調査及び整理作業の担当者及び実施期間は本文中に記載した。

5　本書の執筆は，上席研究員土屋潤一郎が担当し，南部調査事務所職員が協力した。なお，木製品の実測の一部については大久保奈々の協力を得た。

6　発掘調査から報告書の刊行に至るまで，千葉県教育庁教育振興部文化財課，千葉県県土整備部，市原市教育委員会ほか多くの方々から御指導，御協力を得た。

7　本書で使用した地形図は，下記のとおりである。

　第1図　　市原市役所発行　1/2,500地形図を一部改変して使用

　第2図　　国土地理院発行　1/25,000地形図「姉崎」

8　遺跡周辺の航空写真は，京葉測量株式会社によって撮影されたものを使用した。

9　本書で使用した図面の方位は，すべて座標北である。測量値は日本測地系である。

10　本書で使用した遺構の略称は以下のとおりである。

　掘立柱建物跡：ＳＢ　　ピット：ＳＨ　　柵列：ＳＡ　　井戸：ＳＥ　　土坑：ＳＫ

　溝状遺構・道路状遺構：ＳＤ

本文目次

序文
凡例
第１章　はじめに……1
　第１節　調査の概要……1
　　1　調査の経緯と経過……1
　　2　調査の方法……2
　第２節　遺跡の位置と環境……2
　　1　遺跡の位置と環境……2
　　2　周辺の遺跡……2
第２章　検出された遺構と遺物……6
　第１節　概要……6
　第２節　遺構と遺物……6
　　1　掘立柱建物跡・ピット群……6
　　2　柵列……12
　　3　井戸……12
　　4　溝状遺構……17
　　5　道路状遺構……19
　　6　その他の遺物……24
第３章　まとめ……48
　第１節　検出された遺構について……48
　第２節　出土遺物について……49

報告書抄録……巻末

挿図目次

第１図　調査区及び確認トレンチ……3
第２図　遺跡の位置と周辺遺跡……5
第３図　Ⅰ区遺構配置図……25
第４図　Ⅰ区溝状遺構配置図……26
第５図　Ⅰ区掘立柱建物跡及びピット群……27
第６図　Ⅱ・Ⅲ区遺構配置図……28
第７図　Ⅲ区遺構配置図……29
第８図　Ⅳ区遺構配置図……30
第９図　Ⅴ区遺構配置図……31
第10図　Ⅴ区掘立柱建物跡（１）……32
第11図　Ⅴ区掘立柱建物跡（２）……33
第12図　井戸状遺構（１）……34
第13図　井戸状遺構（２）……35
第14図　土坑等（１）……36
第15図　土坑等（２）……37
第16図　出土遺物（１）……38
第17図　出土遺物（２）……39
第18図　出土遺物（３）……40

第19図　出土遺物（４）……41
第20図　出土遺物（５）……42
第21図　出土瓦……43
第22図　ＳＥ０１出土木製品（１）……44
第23図　ＳＥ０１出土木製品（２）……45
第24図　井戸状遺構出土木製品……46
第25図　出土木製品……47
第26図　西野遺跡主要部遺構検出状況……51

表目次

第１表　西野遺跡遺構一覧……20
第２表　出土遺物観察表……22
第３表　出土銭貨観察表……24

図版目次

図版１　遺跡周辺の航空写真
図版２　調査区近景１
　　調査区近景２
　　調査区近景３
図版３　調査区航空写真
　　Ⅰ区全景（南から）
　　Ⅰ区全景（北から）
図版４　調査風景
　　Ⅱ区全景（東から）
　　Ⅱ区全景（南から）
図版５　Ⅲ区航空写真
　　Ⅲ区全景（北西から）
　　Ⅲ区全景（南東から）
図版６　Ⅲ区近景（南西から）
　　Ⅳ区航空写真
　　Ⅳ区近景（南東から）
図版７　Ⅴ区航空写真
　　Ⅴ区全景（北から）
　　Ⅴ区全景（南から）
図版８　ＳＥ０１木製品出土状況
　　ＳＥ０１
図版９　ＳＥ０２
　　ＳＥ０２貝ブロック
　　ＳＥ０３
図版10　ＳＥ０４
　　ＳＥ０４遺物出土状況
　　ＳＥ０５
図版11　ＳＥ０６
　　ＳＥ０７木製品出土状況
　　ＳＥ０８
図版12　ＳＨ２３
　　ＳＨ２３木製品出土状況
　　ＳＨ２４
図版13　ＳＫ０１
　　ＳＫ０３
　　ＳＫ０３・ＳＫ０４
図版14　ＳＫ０７
　　ＳＫ０８
　　ＳＫ０９
図版15　ＳＫ１６
　　ＳＫ１７
　　ＳＫ１８
図版16　ＳＤ０６・ＳＤ０７
　　ＳＢ０１
　　ＳＢ０２
図版17　出土土器　１
図版18　出土土器　２
図版19　出土土器　３
図版20　出土遺物
図版21　出土瓦
図版22　ＳＥ０７出土柄振
　　ＳＥ０１出土木製品
図版23　ＳＥ０１出土木製品
図版24　井戸状遺構出土木製品
図版25　遺跡出土木製品
図版26　遺跡出土銭貨

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1 調査の経緯と経過

国道297号線市原バイパス改良工事は，国道16号線に接続する市原市玉前を起点とし，現国道297号線と合流する市原市二日市場までの10.7km区間が計画され，昭和57年から実施されることとなった。

事業計画に当たり，昭和56年に『埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて』の照会が千葉県教育委員会あてに提出された。それを受けて教育庁文化課は現地踏査を実施し，事業用地の一部に上総国府推定地や土器の散布地が存在することを回答した。さらに千葉県教育委員会では，それらの遺跡に対する取り扱いについて関係機関と慎重な協議を行い，工事の方法等が検討された。その結果，やむを得ず記録保存の処置を講ずることとなった。

発掘調査は，昭和59年から昭和60年にかけて，西野遺跡群の北部分である市原市西野字南口192-1ほかを対象とした7,470㎡が実施された。この調査では，6世紀代の竪穴住居跡，9世紀後半の井戸跡，9世紀代の溝跡等が検出された。さらに，昭和60年から昭和62年にかけて断続的に養老川の北岸の白山遺跡の調査が行われた。この調査は市原市村上2770ほかに位置し，7,400㎡が調査対象とされた。続いて昭和61年から昭和62年にかけて白山遺跡の北西に続く村上遺跡群内の市原市村上2840ほか及び村上2358ほかの2地点，15,000㎡が調査された。これらの3遺跡は，昭和63年に「千葉県文化財センター調査報告第161集」として刊行されている。

その後，遺跡の所在しない地区において工事が進められてきたが，平成12年から再び西野遺跡内を南に続く工事が必要となり，平成12年，平成13年と断続的に2次にわたって発掘調査が実施された。本書で報告するのは，この2次にわたる調査の成果である。

平成12年度の調査は，市原市西野字中村425-1の1,206㎡を対象とし，平成13年1月9日から1月31日まで，128㎡の確認調査，387㎡の本調査を実施した。調査の結果，古代の掘立柱建物跡，土坑，中世の井戸跡，中・近世の溝などを検出している。平成13年度は，市原市西野字中村439-1ほかの5,676㎡を対象とし，10月1日から12月26日まで，568㎡の確認調査，1,920㎡の本調査を実施した。調査の結果，古代から中世の井戸跡や溝跡などを検出した。

発掘調査及び整理作業に係わる各年度の期間，担当者及び作業内容は，下記のとおりである。

（発掘調査）

平成12年度

期　間　平成13年1月9日～平成13年1月31日

担当者　南部調査事務所長　高田　博

　　上席研究員　渡邊昭宏

内　容　上層確認調査128㎡／上層本調査387㎡

平成13年度

期　間　平成13年10月1日～平成13年12月26日

担当者　南部調査事務所長　高田　博
　　上席研究員　新田浩三
内　容　上層確認調査　568㎡／上層本調査　1,920㎡
（整理作業）
平成16年度
期　間　平成16年９月１日～平成16年12月28日
担当者　南部調査事務所長　高田　博
　　上席研究員　土屋潤一郎
内　容　水洗・注記～報告書刊行

2　調査の方法（第１図）

調査地のグリッド設定は，公共座標（国土方眼座標第Ⅸ座標系）のＸ＝-57,820，Ｙ＝25,020を基点として，東西方向へ20ｍごとに東へアルファベットでＡ～Ｊ，同様に南北方向へ北から算用数字の01～29まで割り付け，01Ａ・29Ｊのように算用数字とアルファベットを組み合わせて大グリッド名とした。大グリッド内をさらに２ｍ四方の小区画に区切り，100の小グリッドに分けた。大グリッドの北西端を00とし，東へ１の位をおくって09まで，南へ10の位をおくって90までとし，南東端が99となるようにした。具体的な表示は12Ｅ－86のようになる。遺構の測量図の作成や遺物の記録は，すべてこの座標値に基づいている。

調査は，まず対象面積の約10％の確認調査を実施し，その結果に基づき本調査の範囲を決定した。確認調査はトレンチ調査とし，Ⅰ区からⅤ区までの５地区で遺構・遺物が確認され，本調査の対象となった。それらのうちのⅠ区は平成12年度に調査し，Ⅱ区からⅤ区までを平成13年度に調査した。

第２節　遺跡の位置と環境

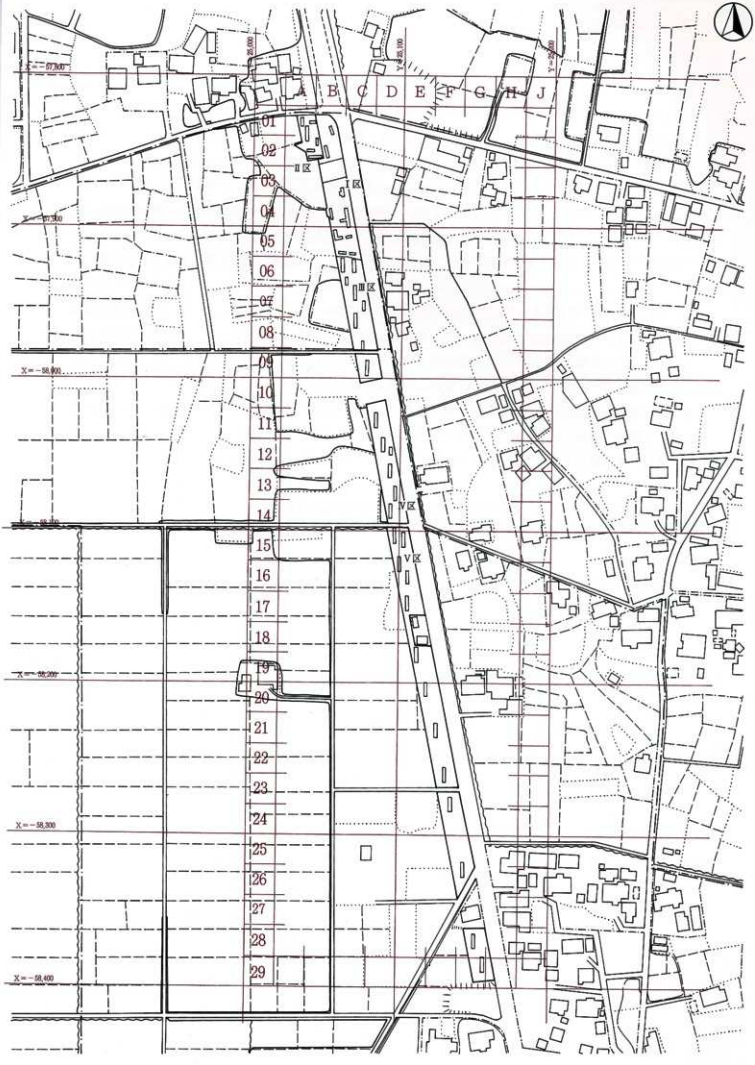
1　遺跡の位置と環境

市原市西野遺跡は，西野・権現堂・糸久・新生の各地区にまたがる東西0.6km，南北1.7kmに及ぶ長大な範囲が想定される遺跡である。清澄山系の東麓に源を持ち，東京湾へ注ぐ養老川の左岸に位置し，標高７ｍ～11ｍの自然堤防上に立地している。この養老川は，遺跡の所在する付近でそれまで北行していた流れを急激に西方へ変える。周囲の微高地の分布などを見ると，川が幾度となく氾濫し，その都度流路を変えていたことが窺える。平成12・13年度の発掘地区は，西野遺跡の北西側縁辺部の標高９ｍ～11ｍの所が調査対象であった。

遺跡は自然堤防上に立地しているが，調査地点が微高地の縁辺であるため，一部が水田にかかる状況で，低湿地遺跡の様相を呈していた。そのため，わずかな掘削でも湧水が見られる状況であった。

2　周辺の遺跡（第２図）

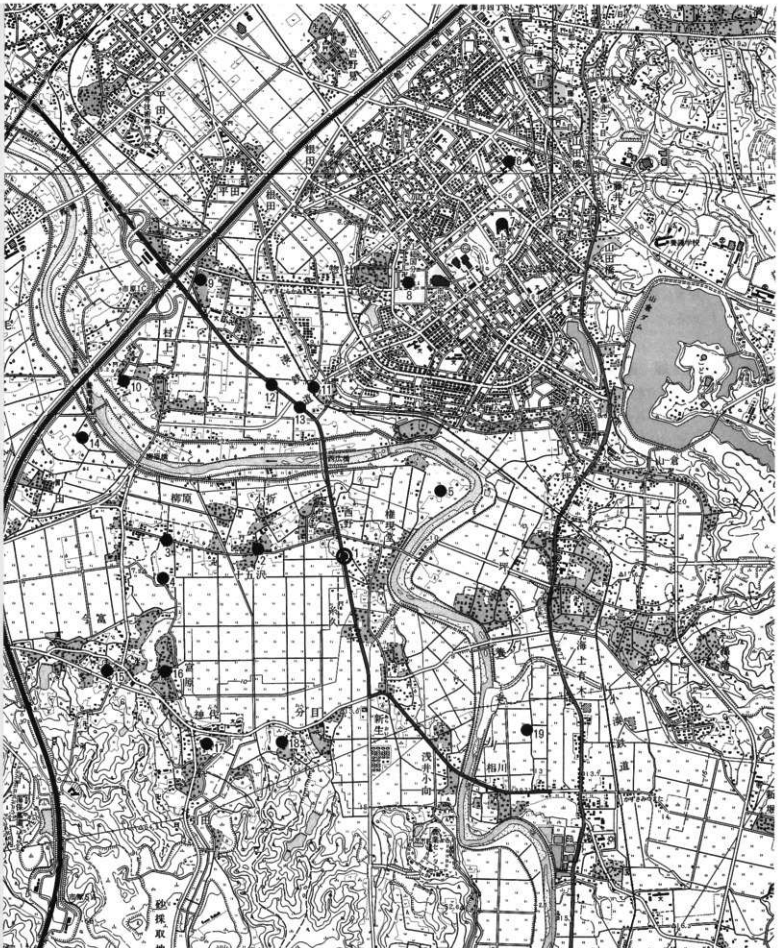
西野遺跡の所在する微高地は，養老川に沿ってさらに西へ延びるが，その微高地上には，西野地区に隣接する小折地区・十五沢地区を中心に十五沢遺跡群があり，柳原地区・今富地区を中心とする坊ヶ谷遺跡群へと続く。小折地区は，地名の読み「こおり」が「郡」の変化と考えられ，郡衙の名残として「大日本地名辞典」に紹介され，海上郡衙所在地に比定されている所である。また，今富地区には，上総国分僧寺



第１図　調査区及び確認トレンチ（1:2,500）

に先行する時期の瓦が出土した今富廃寺跡が所在する。この寺は，小折の西約500ｍに位置し，海上郡衙の郡名寺院と考えられている。この遺跡は，昭和56年に発掘調査が実施され，瓦散布地の周辺に調査トレンチが入れられた。調査の結果，軒丸瓦３種と軒平瓦１種などが確認されている。軒丸瓦については，三重圏文縁単弁八葉蓮華文軒丸瓦と二重圏文縁単弁八葉蓮華文軒丸瓦の２種が，７世紀後半に建立された印旛郡栄町龍角寺の系譜を引くもので，もう１種が，市原市武士廃寺のものと同笵の有芯四重圏文軒丸瓦である。軒平瓦は，均整唐草文軒平瓦で，上総国分僧寺跡出土瓦と同系のものである。これらの瓦からは，今富廃寺が，７世紀末か８世紀初頭に建立されたこと。さらに，８世紀半ばに整備・補修された可能性のあることが窺える[1]。ここからさらに南西へ700ｍほどの低段丘上には，４世紀前半の築造とされる全長約110ｍの前方後円墳である今富塚山古墳が所在する。律令制以前のこの地域は，上海上国造の支配領域とされ，今富から姉崎古墳群を含めたこの一帯が，その本貫地であったと考えられている。今富塚山古墳のある段丘面の東側の宮原地区には宮原御所，神代地区には神代城跡，分目地区には分目要害城跡といった中世の城跡等が所在する。西野遺跡と姿老川を挟んだ対岸には，上総国府推定地のひとつとされる村上遺跡群があり，その東側台地上には，上総国分僧寺，上総国分尼寺，坊作遺跡等が所在する。特に坊作遺跡は，上総国分尼寺の造営に関わりの深い集落と考えられており，この遺跡から出土した「海上厨」の墨書土器は，海上郡が尼寺の造営と何らかの繋がりをもっていたことを示している[2]。

注１　福岡元他　1982『今富地区遺跡発掘調査報告』　市原市今富地区遺跡調査会
２　小出紳夫他　2002「坊作遺跡」「上総国分寺台遺跡調査報告Ⅵ」　市原市教育委員会



1．西野遺跡　2．十五沢遺跡群　3．坊ヶ谷遺跡　4．今富廃寺跡　5．東川原遺跡
6．坊作遺跡　7．上総国分尼寺跡　8．上総国分僧寺跡　9．村上遺跡群　10．高ビヨ
遺跡　11．村上川堀遺跡　12．村上遺跡(297号バイパス)　13．白山遺跡　14．町田東畑
遺跡　15．今富塚山古墳　16．宮原御所　17．神代城跡　18．分目要害城跡　19．海士有
木遺跡群

第２図　遺跡の位置と周辺遺跡（1:25,000）

第２章　検出された遺構と遺物

第１節　概要

バイパス改良工事は既存の道路の幅員を増やす拡幅工事であるため，今回の発掘調査は現道に沿って幅約10ｍで長さ約600ｍの南北に狭長な区域の調査となった。この調査区域の中で遺構が検出されたのは，北半部分のみである。遺構の種類は，井戸跡及び土坑，溝状遺構が主なものである。検出された遺構は，中世に属する遺構が大半を占めているが，奈良・平安時代の遺構も見られ，古墳時代の遺物も検出されている。

第２節　遺構と遺物

１　掘立柱建物跡・ピット群

Ｉ区から古代の掘立柱建物跡が検出された。またＶ区からは，中世と思われる掘立柱建物跡群及びピット群が検出された。東西方向に続く溝で区切られ，南北の幅を規制された範囲に構築されていた。井戸・掘立柱建物跡・楯列跡との関係から，屋敷地が街道（現国道）に沿って，整然と区画されていた様子が窺える。

調査時点では掘立柱建物跡としての配列はできなかったが，整理作業において掘立柱建物跡として14棟が，楯列として２条が配列された。

ＳＢ０１（第５図，図版16）

平成12年度に調査を実施した掘立柱建物で，Ｉ区から検出した。４Ｂ－67・68グリッドに所在する。柱穴４本を検出した。梁間１間（東西1.5ｍ），桁行は調査区外東西方向へ続く。東西方向の柱列を梁間とすると，棟方位はＥ－１－Ｎとなり，東西棟の建物が復元できる。柱穴掘形は，40㎝～50㎝の円形で確認面からの深さは30㎝～40㎝である。遺物は出土していない。

ＳＢ０２（第５図，図版16）

平成12年度に調査を実施した掘立柱建物で，Ｉ区から検出した。４Ｂ－67グリッドに所在する。柱穴２本を検出した。ＳＢ０１に隣接する。梁間１間（東西1.75ｍ），桁行は調査区外西側へ続く。東西方向の柱列を梁間とすると，棟方位はＥ－17－Ｓとなり，東西棟の建物が復元できる。柱穴掘形は，45㎝～60㎝の円形で確認面からの深さは西側40㎝，東側30㎝である。遺物は出土していない。

ＳＢ０３（第10図）

14Ｅ－29グリッドに所在する。梁間１間（南北2.1ｍ），桁行は調査区外西側へ続く。南北方向の柱列を梁間とすると，棟方位はＥ－７－Ｎとなり，東西棟の建物が復元できる。柱穴掘形は，35㎝～40㎝の円形で確認面からの深さは北側30㎝，南側47㎝である。すぐ西側にはＳＥ０７井戸があり，井戸の覆い屋の可能性も考えられる。遺物は出土していない。北側のＳＤ１９・南側のＳＤ２０・２１の溝に区画された範囲に所在する。

ＳＢ０４（第10図）

14Ｅ－29・15Ｅ－20グリッドに所在する。梁間・桁行きとも１間である。（南北1.8ｍ，東西2.4ｍ）南北方向の柱列を梁間とすると，棟方位はＥ－６－Ｎとなり，東西棟の建物である。柱穴掘形は，25㎝～45㎝の楕円形で確認面からの深さは６㎝～26㎝である。遺物は出土していない。北側のＳＤ１９・南側のＳＤ２０・２１の溝に区画された範囲に所在する。西側の井戸ＳＥ０７とは，30㎝ほど離れている。

ＳＢ０５（第10図）

15Ｅ－70，71，72，74，80，81，82，84，90，91，92，93，94グリッドに所在する。梁間１間・桁行３間である。（南北3.9ｍ，東西6.0ｍ）南北方向の柱列を梁間とすると，棟方位はＥ－６－Ｎとなり，東西棟の建物である。柱穴掘形は，30㎝～40㎝の楕円形で確認面からの深さは12㎝～37㎝である。遺物は出土していない。北側のＳＤ２０・２１・南側のＳＤ２３の溝に区画された範囲に所在する。北側の井戸ＳＥ０８とは，60㎝ほど離れている。溝ＳＤ２３とはほぼ並行に構築されている。

ＳＢ０６（第11図）

15Ｅ－91，92，93，16Ｅ－01，02，03グリッドに所在する。梁間１間・桁行２間（南北2.4ｍ，東西4.0ｍ）である。南北方向の柱列を梁間とすると，棟方位はＥ－７－Ｎとなり，東西棟の建物である。柱穴掘形は，25㎝～40㎝の楕円形で確認面からの深さは９㎝～32㎝である。遺物は出土していない。北側のＳＤ２３・南側のＳＤ２４の溝に区画された範囲に所在する。南側の井戸ＳＫ１６とは，1.5ｍほど離れている。溝ＳＤ２３とはほぼ並行に構築されている。

ＳＢ０７（第11図）

15Ｅ－92，93，94，16Ｅ－01，02，03グリッドに所在する。梁間１間・桁行２間（南北2.4ｍ，東西3.0ｍ）である。桁行の１間は東側調査区外へ続く。南北方向の柱列を梁間とすると，棟方位はＥ－７－Ｎとなり，東西棟の建物である。柱穴掘形は約20㎝の楕円形で確認面からの深さは９㎝～35㎝である。遺物は出土していない。北側のＳＤ２３・南側のＳＤ２４の溝に区画された範囲に所在する。南側の井戸ＳＫ１６とは，1.5ｍほど離れている。溝ＳＤ２３とはほぼ並行に構築されている。ＳＢ０６と北側の桁行がほぼ同じラインとなる。

ＳＢ０８（第11図）

16Ｅ－10，11，20，21，30，31グリッドに所在する。梁間１間・桁行３間（南北3.5ｍ，東西1.5ｍ）である。桁行の１間は西側調査区外へ続く。東西方向の柱列を梁間とすると，棟方位はＮ－８－Ｗとなり，南北棟の建物である。柱穴掘形は約20㎝の楕円形で確認面からの深さは５㎝～28㎝である。遺物は出土していない。北側のＳＤ２３・南側のＳＤ２４の溝に区画された範囲に所在する。西側の井戸ＳＫ１７とは，1.4ｍほど離れている。井戸ＳＫ１７の覆い屋の可能性も考えられる。

ＳＢ０９（第11図）

16Ｅ－01，02，03，11，12，13，20，21，22，23，30，31・32グリッドに所在する。梁間１間・桁行３

間（南北5.9m，4.0m）である。東西方向の柱列を梁間とすると，棟方位はN－2－Wとなり，南北棟の建物である。柱穴掘形は，15cm～30cmの楕円形で確認面からの深さは13cm～28cmである。遺物は出土していない。北側のＳＤ２３・南側のＳＤ２４の溝に区画された範囲に所在する。西側の井戸ＳＫ１７とは，0.8mほど離れている。

ＳＢ１０（第11図）

16E－01，02，03，11，12，13，21，22，31，32グリッドに所在する。梁間１間・桁行３間（南北5.2m，東西3.3m）である。東西方向の柱列を梁間とすると，棟方位はN－4－Wとなり，南北棟の建物である。柱穴掘形は，13cm～46cmの円形で確認面からの深さは５cm～28cmである。遺物は出土していない。北側のＳＤ２３・南側のＳＤ２４の溝に区画された範囲に所在する。西側の井戸ＳＫ１７とは，1.4mほど離れている。井戸ＳＫ１６がＳＢ１０遺構内に位置するが，同時期でない可能性が高い。ＳＢ０９とは東側の桁行が同一ライン上にあるが，一回り小さい。

ＳＢ１１（第11図）

16E－01，02，03，11，12，13，21，22，23，32，33，34グリッドに所在する。梁間１間・桁行３間（南北5.4m，東西4.0m）である。東西方向の柱列を梁間とすると，棟方位はN－12－Wとなり，南北棟の建物である。柱穴掘形は，25cm～40cmの楕円形で確認面からの深さは７cm～39cmである。遺物は出土していない。北側のＳＤ２３・南側のＳＤ２４の溝に区画された範囲に所在する。西側の井戸ＳＫ１７とは，1.4mほど離れている。

ＳＢ１２（第11図）

16E－11，12，13，21，22，23グリッドに所在する。梁間１間・桁行２間（南北2.7m，東西3.5m）である。南北方向の柱列を梁間とすると，棟方位はＥ－３－Ｎとなり，東西棟の建物である。柱穴掘形は，30cmの楕円形で確認面からの深さは13cm～67cmである。遺物は出土していない。北側のＳＤ２３・南側のＳＤ２４の溝に区画された範囲に所在する。西側の井戸ＳＫ１７とは，1.1mほど離れている。井戸ＳＫ１６の覆い屋の可能性も考えられる。

ＳＢ１３（第11図）

16E－12，13，14，22，23，24グリッドに所在する。梁間１間・桁行２間（南北2.8m，東西3.8m）である。南北方向の柱列を梁間とすると，棟方位はＥ－５－Ｎとなり，東西棟の建物である。柱穴掘形は，30cm～40cmの楕円形で確認面からの深さは10cm～34cmである。遺物は出土していない。北側のＳＤ２３・南側のＳＤ２４の溝に区画された範囲に所在する。西側の井戸ＳＫ１７とは，2.7mほど離れている。溝ＳＤ２３とはほぼ並行に構築されている。

ＳＢ１４（第11図）

16E－13，22，23，32，33，34グリッドに所在する。梁間１間・桁行２間（南北3.7m，東西2.4m）である。東西方向の柱列を梁間とすると，棟方位はN－2－Wとなり，南北棟の建物である。柱穴掘形は，

25cm～35cmの楕円形で確認面からの深さは9cm～19cmである。遺物は出土していない。北側のＳＤ２３・南側のＳＤ２４の溝に区画された範囲に所在する。溝ＳＤ２４とはほぼ並行に構築されている。

ＳＢ１５（第11図）

16Ｅ－32，33，34，42，43，44グリッドに所在する。梁間１間・桁行２間（南北2.8m，東西3.8m）である。南北方向の柱列を梁間とすると，棟方位はＥ－２－Ｎとなり，東西棟の建物である。柱穴掘形は，30cmの円形で確認面からの深さは13cm～48cmである。遺物は出土していない。北側のＳＤ２３・南側のＳＤ２４の溝に区画された範囲に所在する。

ＳＢ１６（第11図）

16Ｅ－32，33，34，42，43，44，52，53，54グリッドに所在する。梁間１間・桁行３間（南北3.0m，東西5.2m）である。南北方向の柱列を梁間とすると，棟方位はＥ－４－Ｎとなり，東西棟の建物である。柱穴掘形は，30cmの円形で確認面からの深さは13cm～42cmである。遺物は出土していない。北側のＳＤ２３・南側のＳＤ２５の溝に区画された範囲に所在する。溝ＳＤ２４とはほぼ並行に構築されている。ＳＢ１５とはほぼ並行に構築されている。

ＳＨ０１

平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.35m，短軸は0.33mで，深さは0.22mである。

ＳＨ０２

平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.31m，短軸は0.3mで，深さは0.15mである。

ＳＨ０３（第５図，図版20）

平成12年度に調査を実施したピットである。長軸は0.3m，短軸は0.25mで，深さは0.24mである。北宋銭が３枚出土している。それぞれ59－１は「皇宋元宝」，59－２は「元祐通宝」，59－３は「聖宋元宝」である。

ＳＨ０４

平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.33m，短軸は0.28mで，深さは0.17mである。

ＳＨ０５

平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.2m，短軸は0.18mで，深さは0.19mである。

ＳＨ０６

平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.24m，短軸は0.22mで，深さは0.13mである。

SH07
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.26m，短軸は0.24mで，深さは0.08mである。

SH08A
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.38m，短軸は0.33mで，深さは0.22mである。

SH08B
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.36m，短軸は0.31mで，深さは0.19mである。

SH09
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.33m，短軸は0.23mで，深さは0.15mである。

SH10
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.35m，残存部の短軸は0.35mで，深さは0.35mである。

S011
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.38m，短軸は0.35mで，深さは0.18mである。

SH12
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.35m，短軸は0.35mで，深さは0.18mである。

SH13
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.23m，残存の短軸は0.15mで，深さは0.13mである。

SH14
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.4m，短軸は0.4mで，深さは0.25mである。

SH15
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.52m，短軸は0.4mで，深さは0.24mである。

SH16
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.3m，短軸は0.3mで，深さは0.28mである。

SH17
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.25m，短軸は0.25mで，深さは0.16mである。

SH18
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.27m，短軸は0.22mで，深さは0.12mである。

SH19
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.22m，短軸は0.22mで，深さは0.07mである。

SH20
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.27m，短軸は0.26mで，深さは0.11mである。

SH21
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.4m，短軸は0.39mで，深さは0.29mである。

SH22
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.35m，短軸は0.34mで，深さは0.13mである。

SH23（第6・15図，図版12・17・24）
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は約1.1m，短軸は約1mで，深さは0.85mである。
遺物：10は土師器の皿形土器でほぼ完形である。88は大型木製品である。

SH24（第6図，図版12・21・24）
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.72m，短軸は0.70mで，深さは0.8mである。
遺物：66は瓦片である。大きさは7cm×7cm×2.3cmである。色調はにぶい橙色である。

SH25（図版20）
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.33m，短軸は0.32mで，深さは0.2mである。
遺物：52は土錘である。

SH26（第9図）
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.95m、短軸は0.67mで、深さは0.2mである。

SH27（第9図）
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.33m、短軸は0.3mで、深さは0.22mである。

SH28（第10図）
平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.2m、短軸は0.2mで、深さは0.12mである。

ＳＨ２９（第９図）

平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.55ｍ、短軸は0.3ｍで、深さは0.48ｍである。

ＳＨ３０（第９図）

平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.4ｍ、短軸は0.3ｍで、深さは0.04ｍである。

ＳＨ３１（第11図）

平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.3ｍ、短軸は0.25ｍで、深さは0.15ｍである。

ＳＨ３２（第９図）

平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.28ｍ、短軸は0.25ｍで、深さは0.37ｍである。

ＳＨ３３（第11図）

平成13年度に調査を実施したピットである。長軸は0.85ｍ、短軸は0.42ｍで、深さは0.41ｍである。

２　柵列

ＳＡ０１（第10・11図）

15Ｅ－90，91，92，93，94グリッドに所在する。東西調査区外に続く。溝ＳＤ２３と平行に構築されている。柱穴掘形は，15㎝～20㎝の円形で確認面からの深さは11㎝～25㎝である。柱穴の間隔は1.8ｍである。遺物は出土していない。

ＳＡ０２（第11図）

16Ｅ－41，42，43，44，45グリッドに所在する。東西調査区外に続く。溝ＳＤ２４と平行に構築されている。柱穴掘形は，30㎝の楕円形で確認面からの深さは11㎝～22㎝である。柱穴の間隔は1.8ｍである。遺物は出土していない。

３　井戸（ＳＥまたはＳＫ）

井戸は，いずれも円形の平面形態を呈しているが，その径には２種類のものがある。２ｍを超えるものと，１ｍ前後のものである。このため，検出時点では遺構番号に井戸を示す「ＳＥ」の略称でなく，土坑を示す「ＳＫ」の略称が付けられたものもある。また，遺構の性格上掘削が深部に及び，湧水と作業の安全確保のため調査を途中で断念するものもあった。

ＳＥ０１（第３・12図，図版8・17・20・22・23）

平成12年度に調査を実施した井戸跡である。平面の形は2.9ｍ×3.15ｍ，深さ1.4ｍで，楕円形の平面形を呈している。堆積した覆土は，上層では砂質土を含む褐色土が主体をなすが，下位にいくにしたがい灰色を帯びた粘性のあるシルト質のものとなる。湧水のため，調査を途中で断念した。

遺物：出土した遺物は土師器・陶磁器・かわらけ・木製品と多様である。１・２はかわらけである。１

は口径10.1cm，底径5.0cm，器高2.7cmで，底部に回転糸切り痕を残す。色調は明褐色である。2は口径9.0cm，底径5.5cm，器高2.5cmで，底部の切り放しは静止糸切りである。3・4は土師器である。3は椀である。口径12.8cm（復元），底径7.0cm，器高3.9cmである。4は高台付皿である。口径は12.0cmであるが，高台部分を欠損している。45は常滑産甕である。46は青磁碗の破片で，色調は淡い鶯色である。72・73は下駄と思われる木製品である。台部を合わせた横位の状態で出土している。何れも台部と歯を一木から作る連歯下駄である。歯は台部と同じ幅で縦断面逆台形を呈する。台部は前後端を直線的に作るが，前後の歯から両端にかけて次第に幅を狭くする。歯から端部までの長さの長い方が前部，短い方が後部にあたり，72では前部の方が細く作られている。全体に雑なつくりで台部に緒孔も認められない。しかしながら，その形状や一対で出土していることから下駄としてよかろう。58は硯片である。泥岩製である。色調は暗灰色を呈する。ほかに竹製の笄の破片が出土しているが図化はできなかった。

ＳＥ０２（第７・12・24図，図版９・17・24）

平成13年度に調査を実施した井戸跡である。平面の形は2.7m×2.8m，深さ1.2m以上で，ほぼ円形を呈する。覆土は，黒色から黒褐色の粘質土で，中層にイボキサゴを主体とする貝ブロックを含んでいる。また，底面から20cm程度の位置に木材片を廻らし，井戸枠としている。

遺物：検出した遺物は，少量である。7は，常滑産甕の口縁部片である。薄緑色の自然釉がかかっている。8は土師器の高杯形土器の脚部の破片である。脚径は8.7cm，残存器高は4.2cmである。色調はにぶい黄橙色を呈する。74・75は木製品である。

ＳＥ０３（第７・12図，図版９・17）

平成13年度に調査を実施した井戸跡である。東半部分が調査区域外に続くが，平面の形は径2.1m，深さ1.1m以上の円形と思われる。断面は，擂り鉢状を呈し，底面から30cmほど上部に，井戸枠を設けたと思われる段がある。湧水のため底面までの調査はできなかった。

遺物：検出された遺物は少量である。5は，土師器杯である。口径12.2cm，底径9.2cm，器高3.4cmである。外面を手持ちヘラ削り調整していて，ロクロは未使用である。8は，土師器の高杯である。図示できる遺物はこれ1点のみであるが，他に常滑産陶器の小片が出土している。

ＳＥ０４（第７・13図，図版10・17）

平成13年度に調査を実施した井戸跡である。平面の形は1.9m×2.2mの楕円形で，深さ1.8m以上である。断面はコップ状である。井戸枠に用いたと考えられる木製品が出土している。湧水のため底面までの調査はできなかった。

遺物：9は，須恵器の杯である。底部全面に回転ヘラ削り調整が施され，内外面に火だすきが見られる。永田不入窯の所産と思われるが，他に中世陶器の小破片が見られるため，直接遺構に伴うものとは考えにくい。76・77は，木製品である。76は，断面がカマボコ状である。77は，断面が四角形になると考えられる。一つの面の中央部に，長軸方向へ細い溝状の切り込みがはいる。建築部材を井戸枠に再利用したと思われる。

ＳＥ０５（第８・13図，図版10・18）

平成13年度に調査を実施した井戸跡である。平面の形は3.6ｍ×4.0ｍと今回の調査区域の中では最大級の大きさを持つ井戸である。西側をＳＥ０６と，東側をＳＤ１５と重複している。

遺物：湧水のため深く掘り下げることができず，出土遺物も少量しか検出されていない。20は，常滑産捏ね鉢の底部片である。外面に籾粒の圧痕が見られる。

ＳＥ０６（第８・13・18図，図版11・18・20）

平成13年度に調査を実施した井戸跡である。平面の形は3.0ｍ×3.8ｍ（推定）の楕円形で，深さは0.9ｍ以上である。東側部分をＳＥ０５により削り取られている。

遺物：出土した遺物は常滑産の陶器である。木製品も検出されているが，危弱であったため図示には至らなかった。21は，甕の口縁部片であり，推定口径は約45㎝である。22・24は，甕の胴部上位の破片である。２点とも外面に押印が施されている。23は，捏ね鉢の底部片である。55は，捏ね鉢の破片と思われるが，砥石として再利用している。

ＳＥ０７（第10・13・15・22図，図版11・18・22・24）

平成13年度に調査を実施した井戸跡である。平面の形は直径1.4ｍほどの円形で，深さは1.15ｍ以上である。比較的小さな井戸である。湧水のため1.2ｍ程の深さまでしか調査できなかった。最下層から木製品が出土している。

遺物：25～30は，常滑産の陶器である。25は，捏ね鉢の口縁部片である。器面の外側に煤が付着している。27は，甕の肩部の破片であり，外面に押印が見られる。26・28～30は，捏ね鉢である。推定口径は35㎝を超える。28は，内面に降灰がガラス化して付着している。29は，内面の摩耗がわずかである。30は，内面の摩耗が見られない。78は，木製品の柄振である。横幅45.2㎝を測り，着柄角度は，約105°である。

ＳＥ０８（第10・13図，図版11）

平成13年度に調査を実施した。平面の形は直径1.4ｍの円形で，深さは0.7ｍ以上である。ＳＥ０７同様に，湧水のため底面までの調査はできなかった。

ＳＫ０１（第３図，図版13・17）

平成12年度に調査を実施した井戸跡である。調査開始時は土坑として調査を開始したが，形状及び調査所見から井戸跡と考えられる。平面の形は円形を呈する。長軸は0.7ｍ，短軸は0.7ｍで，深さは0.75ｍである。

遺物：11は須恵器の杯形土器の底部片である。永田不入窯産と推定される。残存器高は2.3㎝である。色調は内外面ともに褐灰色を呈する。

ＳＫ０２（第５・14図）

平成12年度に調査を実施した井戸跡である。調査開始時は土坑として調査を開始したが，形状及び調査所見から井戸跡と考えられる。検出時の平面の形状はほぼ円形を呈する。長軸は1.7ｍ，短軸は1.4ｍで，

深さは0.5mである。

ＳＫ０３（第６・14図，図版13）
平成13年度に調査を実施した井戸跡である。平面の形は1.3m×1.6mの楕円形で，深さは1.2m以上である。北西部分でＳＫ０４と重複する。湧水のため底面までの調査はできなかった。

ＳＫ０４（第６・14図，図版13）
平成13年度に調査を実施した井戸跡である。調査開始時は土坑として調査を開始したが，形状及び調査所見から井戸跡と考えられる。検出時の平面の形状は円形を呈する。長軸は1.2m，短軸は1.2mで，深さは0.15mである。

ＳＫ０５
欠番。

ＳＫ０６（第６・14図）
平成13年度に調査を実施した井戸跡である。調査開始時は土坑として調査を開始したが，形状及び調査所見から井戸跡と考えられる。検出時の平面の形状は円形を呈する。長軸は0.7m，短軸は1.1mで，深さは0.12mである。

ＳＫ０７（第６・14図，図版14）
平成13年度に調査を実施した井戸跡である。直径1.0mの円形を呈す。湧水のため未完掘であり，底面までの調査はできなかった。本来の井戸の深さは0.95m以上であると思われる。図示できる遺物は出土しなかった。

ＳＫ０８（第６・14図，図版14）
平成13年度に調査を実施した井戸跡である。平面の形は長軸は0.8m，短軸は0.75mで，深さは0.7m以上である。溝状遺構ＳＤ０９内に存在するが，ＳＤ０９より新しい。

ＳＫ０９（第14図，図版14）
平成13年度に調査を実施した井戸跡である。調査開始時は土坑として調査を開始したが，形状及び調査所見から井戸跡と考えられる。検出時の平面の形状は円形を呈する。長軸は0.6m，短軸は1.8mで，深さは0.12mである。

ＳＫ１０（第７・14図）
平成13年度に調査を実施した井戸跡である。調査開始時は土坑として調査を開始したが，形状及び調査所見から井戸跡と考えられる。検出時の平面の形状は円形を呈する。長軸は1.6m，短軸は2.1m以上で，深さは0.25mである。

ＳＫ１１（第７・15図）

平成13年度に調査を実施した井戸跡である。調査開始時は土坑として調査を開始したが，形状及び調査所見から井戸跡と考えられる。検出時の平面の形状は円形を呈する。調査区外へ続き全体の調査はできなかった。長軸は1.7ｍ以上，短軸も７ｍ以上で，深さは0.08ｍである。

ＳＫ１２（第７・14図）

平成13年度に調査を実施した井戸跡である。調査開始時は土坑として調査を開始したが，形状及び調査所見から井戸跡と考えられる。検出時の平面の形状は円形を呈する。長軸は１ｍ，短軸は0.7ｍで，深さは0.275ｍである。

ＳＫ１３（第７・14図）

平成13年度に調査を実施した井戸跡である。調査開始時は土坑として調査を開始したが，形状及び調査所見から井戸跡と考えられる。検出時の平面の形状は円形を呈する。長軸は0.95ｍ，短軸は1.1ｍで，深さは0.45ｍである。

ＳＫ１４（第10・15図）

平成13年度に調査を実施した井戸跡である。調査開始時は土坑として調査を開始したが，形状及び調査所見から井戸跡と考えられる。検出時の平面の形状は円形を呈する。長軸は1.3ｍ，短軸は1.2ｍ以上で，深さは0.3ｍである。

ＳＫ１５（第10・15図）

平成13年度に調査を実施した井戸跡である。直径1.5ｍの円形を呈し，深さは0.6ｍ以上である。北部を溝状遺構ＳＤ２２により破壊されている。

ＳＫ１６（第11・15図，図版15）

平成13年度に調査を実施した井戸跡である。直径1.4ｍの円形を示し，深さは0.7ｍ以上である。湧水のため底面の検出はできなかった。

ＳＫ１７（第11・15図，図版15）

平成13年度に調査を実施した井戸跡である。検出時の平面の形状は円形を呈する。湧水のため底面の検出はできなかった。長軸は1.65ｍ，短軸は１ｍ以上で，深さも0.7ｍ以上である。

ＳＫ１８（第11図，図版15）

平成12年度に調査を実施した井戸跡である。検出時の平面の形状は円形を呈する。長軸は0.85ｍ，短軸は0.95ｍで，深さは0.48ｍである。

4　溝状遺構

今回の調査では，24条の溝状遺構を検出したが，なかでもⅣ区で検出されたＳＤ１５は，規模，形状，出土遺物の量などあわせて，注目されるものである。

ＳＤ０１（第３・４・16図，図版21）

平成12年度に調査を実施した溝状遺構である。上幅3.3ｍ，底幅1.6ｍ，深さ0.4ｍである。

遺物：67は瓦である。大きさは8.2㎝×5.8㎝×2.3㎝である。色調はにぶい橙色を呈する。

ＳＤ０２（第３・４・16図）

平成12年度に調査を実施した溝状遺構である。上幅0.78ｍ，底幅0.18ｍ，深さ0.3ｍである。

ＳＤ０３（第３・４・16図）

平成12年度に調査を実施した溝状遺構である。上幅0.72ｍ，底幅0.38ｍ，深さ0.15ｍである。

ＳＤ０４（第３・４・16図）

平成12年度に調査を実施した溝状遺構である。上幅1.7ｍ，底幅0.6ｍ，深さ0.15ｍである。

ＳＤ０５（第６・16図，図版17）

平成13年度に調査を実施し溝状遺構である。上幅0.34ｍ，底幅0.12ｍ，深さ0.16ｍである。

ＳＤ０８（第７・16図，図版16・20）

平成13年度に調査を実施した溝状遺構である。上幅1.05ｍ，底幅0.3ｍで，深さ0.18ｍである。

遺物：56は凝灰岩製の砥石である。長さ5.7㎝，幅3.6㎝，厚さ1.7㎝である。色調はにぶい黄色である。

ＳＤ０９（第６・16図）

平成13年度に調査を実施した溝状遺構である。上幅が4.7ｍと広く大形の溝である。調査区外に続き全体は調査できなかった。

ＳＤ１０（第６・16図，図版16・17・20）

平成13年度に調査を実施した溝状遺構である。上幅0.6ｍ，底幅0.3ｍ，深さ0.12ｍである。

ＳＤ１１（第７・15図，図版16・17・20）

平成13年度に調査を実施した溝状遺構である。上幅のみ確認できた。上幅は0.8ｍである。

ＳＤ１２

欠番。

ＳＤ１３

欠番。

ＳＤ１４

ＳＤ１５と同一遺構。

ＳＤ１５（第８・16・17・19・23図，図版６・17・19・20・21・24・25）

平成13年度に調査を実施した溝状遺構である。Ⅳ区から検出された。ＳＤ１４とは同一遺構である。上端幅3.5ｍ，底面幅2.0ｍを測り，深さは0.9ｍである。重複するＳＥ０５井戸よりも古い時期の溝である。

遺物：15・18・43は土師器杯の底部である。15は底径6.5㎝，残存器高は1.8㎝である。色調は内面は灰白色，外面は灰白色からにぶい褐色を呈す。43には，回転糸切り痕が残る。16は須恵器の高台付壺の底部片である。底径12.2㎝，残存器高3.8㎝である。色調は内外面は褐灰色である。17は須恵器の高台付杯の底部片で，復元底径は13.9㎝，残存器高は4.3㎝である。色調は内外面とも褐灰色である。18は土師器の杯形土器の底部片で，底径５㎝，残存器高2.7㎝である。色調は内外面ともに灰黄色である。31～39・41は常滑産の捏ね鉢である。40は常滑の壺形土器の肩部の破片である。42は須恵器の壺形土器の底部片である。44は須恵器の蓋形土器の宝珠である。31・33の内面は底部付近を中心に摩耗が著しい。53・54は，滑石製鍋である。内外面に煤が付着している。65～71は瓦片で，全て小破片である。79～81は，容器に用いたと思われる薄い板状の木製品である。80は黒漆塗りである。82・84・87は，建築部材であろう。83は柄状の形態をしている。85・86は，管状に加工してある。88は，大型の板である。

ＳＤ１６（第８・16図，図版19・20）

平成13年度に調査を実施した溝状遺構である。上幅1.75ｍ，底幅0.7ｍ，深さ0.7ｍである。

遺物：34はＳＤ１５出土遺物と接合した常滑産の捏ね鉢の破片である。口縁径は26.3㎝である。51は土師器の内耳鍋の破片である。

ＳＤ１７（第８・16図，図版20）

平成13年度に調査を実施した溝状遺構である。調査区外へ続き全体を調査できなかった。検出できた長さは0.8ｍのみであった。遺物のうち41は常滑産の捏ね鉢の底部片である。49は瀬戸産の擂り鉢と思われる。底部の約1/3が残存する。

ＳＤ１８（第８・16図，図版16・17・20）

平成13年度に調査を実施した溝状遺構である。上幅1.2ｍ，底幅0.9ｍ，深さ0.48ｍである。

ＳＤ１９（第９・16図，図版16・17・20）

平成13年度に調査を実施した溝状遺構である。上幅0.6ｍ，底幅0.5ｍ，深さは完掘できず不明である。

ＳＤ２０（第10・16図，図版16・17・20）

平成13年度に調査を実施した溝状遺構である。上幅1.49ｍ，底幅0.5ｍ，深さ0.18ｍである。実測できる

遺物は1点が図化できた。50は瀬戸産の緑釉小皿の破片である。

ＳＤ２１（第10・16図，図版16・17・20）
平成13年度に調査を実施した溝状遺構である。上幅0.7m，底幅0.44m，深さ0.46mである。

ＳＤ２２（第10・16図，図版16・17・20）
平成13年度に調査を実施した溝状遺構である。上幅0.65m，底幅0.33m，深さ0.28mである。

ＳＤ２３（第10・11・16・17・19・23図，図版６・17・19・20・21・24）
平成13年度に調査を実施した溝状遺構である。上幅0.6m，底幅0.5m，深さ0.04mである。

ＳＤ２４（第11図）
平成13年度に調査を実施した溝状遺構である。上幅0.5m，底幅0.28m，深さ0.05mである。

ＳＤ０２５（第11図）
平成13年度に調査を実施した溝状遺構である。上幅１m，底幅0.96m，深さ0.03mである。

5　道路状遺構

ＳＤ０６（第７図，図版16・20）
Ⅲ区で検出された遺構である。平成13年度に調査を実施した。調査時は溝状遺構として調査を実施したので，略称として「ＳＤ」を付しているが，調査によって道路状遺構と確認された。報告では，調査時の略称を用いて記述する。上端幅2.5m，底面幅0.8m，深さは0.8mである。北東から南西へ直線的に延びている。重複するＳＤ０７が硬化面を持ち，道路状遺構と考えられ，ＳＤ０６を道路に伴う側溝として考えたが，ＳＤ０７が緩く曲線を描くのに対し，ＳＤ０６は直線的に延びるため，別々の遺構と思われる。

遺物：48は常滑産の捏ね鉢の口縁部小破片である。胎土は砂粒を含むが良好で，色調は内面黒褐色，外面褐色を呈する。47は常滑産の捏ね鉢の口縁部片であるが，表面の色調が明黄褐色の土師質のものである。残存器高は3.3cmである。12・13は須恵器である。12は高台付杯で底径は8.2cm，残存器高は1.4cmで胎土は緻密で良好，色調は暗黒灰色を呈する。13は須恵器の捏ね鉢の底部片である。底径13cmで，残存器高は４cmである。色調は内面褐灰色，外面暗灰色を呈する。

ＳＤ０７（第７図，図版16・17）
平成13年度に調査を実施し道路状遺構と推定され，ＳＤ０６と重複する。硬化面がある。上幅は9.7m以上，深さは0.38mである。

遺物：14は常滑産の甕の底部片で約1/4が残存し，残存器高は4.8cmである。外面にタタキ目を持つ。胎土は微量の砂粒を含む。色調は内外面ともに明灰褐色である。

第１表　西野遺跡遺構一覧

No.	検図	調査年度	遺構番号	種類	形状・方向	定規有無	井戸	検出区	その他	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)
1	5	12	ＳＢ０１	掘立柱建物跡	東西			Ⅰ区、４Ｂ				
2	5	12	ＳＢ０２	掘立柱建物跡	東西			Ⅰ区、４Ｂ				
3	10	12	ＳＢ０３	掘立柱建物跡	東西			Ⅴ区、１４Ｅ				
4	10	12	ＳＢ０４	掘立柱建物跡	東西			Ⅴ区、１４Ｅ		2.4	1.8	
5	10	12	ＳＢ０５	掘立柱建物跡	南北			Ⅴ区、１５Ｅ		6.0	3.9	
6	11	12	ＳＢ０６	掘立柱建物跡	南北			Ⅴ区、１５Ｅ		4.0	2.4	
7	11	12	ＳＢ０７	掘立柱建物跡	東西			Ⅴ区、１５Ｅ		3.0	2.4	
8	11	12	ＳＢ０８	掘立柱建物跡	南北			Ⅴ区、１６Ｅ		3.5	1.5	
9	11	12	ＳＢ０９	掘立柱建物跡	南北			Ⅴ区、１６Ｅ		5.8	4.0	
10	11	12	ＳＢ１０	掘立柱建物跡	南北			Ⅴ区、１６Ｅ		5.2	3.3	
11	11	12	ＳＢ１１	掘立柱建物跡	南北			Ⅴ区、１６Ｅ		5.4	4.0	
12	11	12	ＳＢ１２	掘立柱建物跡	南北			Ⅴ区、１６Ｅ		3.5	2.7	
13	11	12	ＳＢ１３	掘立柱建物跡	南北			Ⅴ区、１５Ｅ		3.8	2.8	
14	11	12	ＳＢ１４	掘立柱建物跡	東西			Ⅴ区、１６Ｅ		3.7	2.4	
15	11	12	ＳＢ１５	掘立柱建物跡	南北			Ⅴ区、１６Ｅ		3.8	2.8	
16	11	12	ＳＢ１６	掘立柱建物跡	東西			Ⅴ区、１５Ｅ		5.2	3.0	
17	10-11	12	ＳＡ０１	柵列	東西			Ⅴ区、１６Ｅ				
18	11	12	ＳＡ０２	柵列	東西			Ⅴ区、１６Ｅ				
19	5	12	ＳＨ０１	ピット				Ⅰ区、４Ｂ－６８	柱痕	0.35	0.33	0.22
20	5	12	ＳＨ０２	ピット				Ⅰ区、４Ｂ－７６		0.31	0.30	0.15
21	5	12	ＳＨ０３	ピット				Ⅰ区、４Ｂ－７６	北東隣３次出土、ＳＢ０２の南隣に位置	0.30	0.25	0.24
22	5	12	ＳＨ０４	ピット				Ⅰ区、４Ｂ－７７		0.28	0.23	0.17
23	5	12	ＳＨ０５	ピット				Ⅰ区、４Ｂ－７８		0.20	0.18	0.19
24	5	12	ＳＨ０６	ピット				Ⅰ区、４Ｂ－７８		0.24	0.22	0.13
25	5	12	ＳＨ０７	ピット				Ⅰ区、４Ｂ－８６		0.26	0.24	0.08
26	5	12	ＳＨ０８Ａ	ピット				Ⅰ区、４Ｂ－８７	Ｂ（古）→Ａ（新）	0.38	0.33	0.22
27	5	12	ＳＨ０８Ｂ	ピット				Ⅰ区、４Ｂ－８７	Ｂ（古）→Ａ（新）	0.36	0.31	0.19
28	5	12	ＳＨ０９	ピット				Ⅰ区、４Ｂ－９６	柱痕	0.23	0.23	0.15
29	5	12	ＳＨ１０	ピット				Ⅰ区、４Ｂ－９６	柱痕	0.35	(0.35)	0.35
30	5	12	ＳＨ１１	ピット				Ⅰ区、４Ｂ－８７	柱痕	0.36	0.35	0.16
31	5	12	ＳＨ１２	ピット				Ⅰ区、４Ｂ－９８		0.35	0.33	0.18
32	5	12	ＳＨ１３	ピット				Ⅰ区、５Ｂ－１７		0.23	(0.15)	0.13
33	5	12	ＳＨ１４	ピット				Ⅰ区、５Ｂ－１７		0.40	0.40	0.25
34	5	12	ＳＨ１５	ピット				Ⅰ区、５Ｂ－１８		0.40	0.52	0.34
35	5	12	ＳＨ１６	ピット				Ⅰ区、５Ｂ－３８		0.30	0.30	0.26
36	5	12	ＳＨ１７	ピット				Ⅰ区、４Ｂ－８７		0.25	0.25	0.16
37	5	12	ＳＨ１８	ピット				Ⅰ区、４Ｂ－８７		0.27	0.22	0.12
38	5	12	ＳＨ１９	ピット				Ⅰ区、４Ｂ－８７		0.22	0.22	0.07
39	5	12	ＳＨ２０	ピット				Ⅰ区、４Ｂ－６８		0.26	0.27	0.11
40	5	12	ＳＨ２１	ピット				Ⅰ区、４Ｂ－４９	ＳＤ０１の下から検出	0.39	0.40	0.29
41	5	12	ＳＨ２２	ピット				Ⅰ区、４Ｃ－６１		0.35	0.34	0.13
42	6	12	ＳＨ２３	ピット				Ⅱ区北、５Ｃ		(1.1)	(1.0)	0.85
43	6	12	ＳＨ２４	ピット				Ⅱ区北、６Ｃ		0.70	0.72	0.80
44	9	12	ＳＨ２５	ピット				Ⅴ区、１４Ｄ	土師出土	0.32	0.33	0.20
45	9	12	ＳＨ２６	ピット				Ⅴ区、１４Ｄ		0.95	0.67	0.20
46	,9	12	ＳＨ２７	ピット				Ⅴ区、１４Ｄ		0.30	0.33	0.22
47	9	12	ＳＨ２８	ピット				Ⅴ区、１５Ｅ－８２		0.20	0.20	0.12
48	9	12	ＳＨ２９	ピット				Ⅴ区、１６Ｅ－１１		0.55	0.30	0.48
49	9	12	ＳＨ３０	ピット				Ⅴ区、１５Ｅ－１１		0.40	0.30	0.04
50	9-11	12	ＳＨ３１	ピット				Ⅴ区、１６Ｅ－２４		0.25	0.30	0.15
51	9	12	ＳＨ３２	ピット				Ⅴ区、１６Ｅ－３４		0.35	0.28	0.37

No.	掃図	調査年度	遺構番号	種類	形状・方向	完掘有無	井戸	検出区	その他	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)
52	9-11	12	SH33	ピット				V区、16E-21		0.85	0.42	0.41
53	3-12	12	SE01	井戸跡	楕円形	未完掘		I区、4C	横井	2.90	3.15	(1.4)
54	7-12	12	SE02	井戸跡	円形	未完掘	井戸枠あり	II区、8C		2.70	2.80	(1.2)
55	7-12	12	SK03	井戸跡	円形	調査区外へ	井戸枠あり	III区、7C・8C	断面は階段状	2.10	(2.1)	1.1
56	7-13	12	SE04	井戸跡	楕円形		井戸枠あり	III区、7C	断面はコップ状	1.90	2.30	1.8
57	8-13	12	SE05	井戸跡	円形	未完掘		IV区、13D	もっとも大型、SE06と切り合う	3.60	4.00	(1.0)
58	8-13	12	SE06	井戸跡	楕円形	未完掘		IV区、13D	比較的小さい、SE05と切り合う	3.00	(3.8)	(0.9)
59	10-13	12	SE07	井戸跡	円形	未完掘		V区、15D		1.40	(1.4)	(1.15)
60	10-13	12	SE08	井戸跡	円形	未完掘		V区、15E		1.40	(1.4)	(0.7)
61	3	12	SK01	井戸跡	円形			I区、3B	須恵器底部片（永田不入窯）	0.70	0.70	0.75
62	5-14	12	SK02	井戸跡	円形			I区、5B		1.70	1.40	0.9
63	6-14	12	SK03	井戸跡	楕円形	未完掘		II区、2A		1.30	1.60	(1.2)
64	6-14	12	SK04	井戸跡	円形			II区、2A	SK03と切り合う	1.20	1.20	0.15
65		12	SK05		欠番							
66	6-14	12	SK06	井戸跡	楕円形			II区、1A	SD01の内部にある	0.70	1.10	0.12
67	6-14	12	SK07	井戸跡	円形	未完掘		II区、1A	SD01の内部にある	1.00	1.00	(0.95)
68	6-14	12	SK08	井戸跡	円形			II区、1A	SD01の内部にある	0.80	0.75	(0.7)
69	14	12	SK09	井戸跡	円形					0.60	1.80	0.12
70	7-14	12	SK10	井戸跡	長方形	未完掘		III区、8C	調査区外に続く	1.60	(2.1)	0.25
71	7-15	12	SK11	井戸跡	円形	未完掘		III区、8D	調査区外へつづく、大型	(1.7)	(7.0)	0.08
72	7-14	12	SK12	井戸跡	円形			III区、7B		1.00	0.70	0.275
73	7-14	12	SK13	井戸跡	円形			III区、7C		0.95	1.10	0.45
74	10-15	12	SK14	井戸跡	方形			V区、15E	調査区外へ続く	1.30	(1.3)	0.3
75	10-15	12	SK15	井戸跡	円形			V区、15E	SD22に切られる	1.50	1.50	(0.6)
76	11-15	12	SK16	井戸跡	円形	未完掘		V区、16E		1.40	1.40	(0.9)
77	11-15	12	SK17	井戸跡	方形？	未完掘		V区、16E	調査区外へ続く	1.65	(1.0)	(0.7)
78	11	12	SK18	井戸跡	円形			V区、16E		0.85	0.95	0.48
79	3-4	12	SD01	溝状遺構	東西			I区、3C		3.30	1.50	0.40
80	3-4	12	SD02	溝状遺構	南北			I区、3C		0.78	0.18	0.30
81	3-4	12	SD03	溝状遺構	南北			I区、3C		0.72	0.38	0.15
82	3-4	12	SD04	溝状遺構	東西			I区、3D		1.70	0.60	0.15
83	8	12	SD05	溝状遺構	東西			III区北、6C		0.34	0.12	0.16
84	7	12	SD08	溝状遺構	東西			III区、8C		1.05	0.30	0.18
85	6	12	SD09	溝状遺構	南北方向			II区、2A・2B	大溝、調査区外へつづく	(4.7)		
86	6	12	SD10	溝状遺構	東西			II区、1B		0.66	0.30	0.12
87	7-15	12	SD11	溝状遺構	南北			III区、8C		0.80		
88		12	SD12		欠番							
89		12	SD13		欠番							
90		12	SD14		欠番				SD015と同一			
91	8	12	SD15	溝状遺構	南北			IV区、13D		3.50	1.25	0.9
92	8	12	SD16	溝状遺構	東西			IV区、13D		1.75	0.70	0.70
93	8	12	SD17	溝状遺構？				IV区、14E	調査区外へつづく、井戸の可能性もある	(0.8)		
94	8	12	SD18	溝状遺構	南北			IV区、14E	調査区外へつづく	1.20	0.90	0.48
95	9	12	SD19	溝状遺構	東西方向			V区、15E・D	調査区外へつづく	0.60	0.50	－
96	10	12	SD20	溝状遺構	東西方向			V区、15E・D	調査区外へつづく	1.49	0.50	0.18
97	10	12	SD21	溝状遺構	東西方向			V区、15E・D	調査区外へつづく、SD20と並行	0.72	0.44	0.46
98	10	12	SD22	溝状遺構	東西方向			V区、15E・D	調査区外へつづく、SD21とほぼ並行	0.65	0.33	0.28
99	10-11	12	SD23	溝状遺構	東西方向			V区、15E・16E		0.60	0.50	0.04
100	11	12	SD24	溝状遺構	東西方向			V区、16E		0.50	0.28	0.05
101	11	12	SD25	溝状遺構	東西方向			V区、16E		1.00	0.96	0.03
102	7	12	SD06	道路状遺構	南北			III区、7B・8B	底面的	2.50	0.80	0.80
103	7	12	SD07	道路状遺構	南北			III区、7B・8B	硬化面あり	9.70	－	0.38

第２表　出土遺物観察表

挿図	番号	図版	遺構番号	遺物番号	種別	器形		口径	底径	器高		色調内面	色調外面
16	1	17	SE01	9	土師器	皿	かわらけ	10.1	5.0	2.7	回転糸切り、砂粒を含む	灰黄褐色	明褐色から明黒褐色
16	2	17	SE01	24	土師器	皿	かわらけ	9.0	5.5	2.5	静止糸切り、砂粒を含む	褐灰色	明褐色
16	3	17	SE01	19	土師器	鉢		(12.8)	7.0	3.9		灰黄褐色	灰黄褐色
16	4	17	SE01	8	土師器	高台付皿		(10.5)	－	(2.0)	高台部欠損	橙色	橙色
16	5	17	SE03	38	土師器	坏		12.2	9.2	3.4	外面手持ちヘラ削り、ロクロ未使用	にぶい橙色	鈍い橙色
16	7	17	SE02	3	常滑	壺	口縁部	－	－	(3.3)	自然釉、長石粒・砂粒を含む	オリーブ黒色	緑褐色
16	8	17	SE02	5	土師器	高坏	脚	－	8.7	(4.2)		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色
16	9	17	SE04	7	須恵器	坏		12.1	8.9	3.6	永田不入窯産、底部全面回転ヘラ削り、内外器火だすき	青灰色	青灰色
16	20	18	SE05	5	常滑	捏ね鉢	底部	－	16.2	(1.5)	外面に荷札の圧痕がある、長石粒・砂粒を含む	赤褐色	赤褐色
16	21	18	SE06	20	常滑	壺	口縁の1/4が残存	(45.0)	－	(6.0)	長石粒・砂粒を含む	赤灰色	暗紫褐色
16	22	18	SE06	10	常滑	壺	胴部	－	－	(12.5)	外面に押印あり、砂粒を含む	灰黒色	灰黒色
16	23	18	SE06	24	常滑	捏ね鉢	底部	－	－	(7.8)	砂粒を含む	明灰褐色	明灰赤色
16	24	18	SE06	14	常滑	壺	胴部	－	－	(4.3)	白面に押印あり、砂粒を含む	暗灰黒色	赤褐色
16	45	20	SE01	17	常滑	甕		－	－	(10)	長石粒・砂粒を含む	灰色	灰黒褐色
16	46	20	SE01	11	青磁	高台付皿	1/4が残存する	－	－	(2.9)	胎土は緻密	灰オリーブ色	淡い緑色
17	25	18	SE07	2	常滑	捏ね鉢	口縁部	－	－	(5.8)	外面に櫛行着、長石粒・砂粒を含む	赤灰色から暗灰黄灰色	暗茶褐色
17	26	18	SE07	1-7	常滑	捏ね鉢	体部の1/3が残存する	(38.1)	14.7	10.2		灰色	灰色
17	27	18	SE07	10	常滑	壺	胴部			(7.6)	外面に押印あり、砂粒を含む	暗灰色	暗灰緑色
17	28	18	SE07	12	常滑	捏ね鉢	底部の1/4が残存する	(35)	－	(6.2)	内面に降灰がガラス化している、長石粒・砂粒を含む	オリーブ灰色	暗灰褐色
17	29	18	SE07	6	常滑	捏ね鉢	底部	(35)	－	－	長石粒・砂粒を含む	灰色	黒褐色
17	30	18	SE07	1-3	常滑	捏ね鉢	底部	(35)	－	(6.8)	微砂粒を含む	灰色	黒褐色
18	12	17	SD06	34	須恵器	高台付杯	底部	－	8.2	(1.4)	緻密	灰色	暗黒灰色
18	13	17	SD06	1	須恵器	捏ね鉢	底部	－	13.0	(4.0)		褐灰色	暗灰色
18	14	17	SD07	1	常滑	底部	底部の1/4が残存	－	－	(4.8)	外面にタタキ目がある、微量の砂粒を含む	明灰褐色	灰褐色
18	15	17	SD15	50	土師器	杯	底部片	－	8.5	(1.8)		灰白色	灰白色から にぶい褐色
18	18	17	SD15	64	土師器	杯	底部片	－	5.0	(2.7)		灰黄色	灰黄色
18	31	19	SD15	66-68	常滑	捏ね鉢	底部の1/4が残存する	(4.2)	(14.2)	13.8	長石粒・砂粒を含む	赤灰色	赤褐色
18	32-33	19	SD15	93-108-115	常滑	捏ね鉢	底部	(38)	(18.5)	11.3	長石粒・砂粒を含む	橙色	橙色
18	35	19	SD15	91-146	常滑	捏ね鉢	口縁部	－	－	－	長石粒・砂粒を含む	灰赤色	黄褐色
18	37	19	SD15	83	常滑	捏ね鉢	口縁部	－	－	(6.5)		灰褐色	灰褐色
18	38	19	SD15	54-55	常滑	捏ね鉢	口縁部	－	－	(4.3)	長石粒・砂粒を含む	灰褐色	灰褐色
18	39	19	SD15	156	常滑	捏ね鉢	口縁部の1/3が残存する	－	－	(3.7)	砂粒を含む	赤黒色	赤黒色
18	43	20	SD15	166	土師器	杯	底部	－	6.6	(1.3)	外面に回転糸切り痕がある	灰オリーブ色	灰オリーブ色
18	47	20	SD06	13	常滑		口縁部	－	－	(3.3)	土師質、砂粒を含む	橙色	明黄褐色
18	48	20	SD06	71	常滑		口縁部	－	－	(3.7)	砂粒を含む	黒褐色	褐色
19	16	17	SD15	85	須恵器	高台付皿	底部	－	12.2	(3.8)		褐灰色	褐灰色
19	17	17	SD15	76	須恵器	高台付	底部	－	(13.9)	(4.3)		褐灰色	褐灰色
19	34	19	SD15-SD16		常滑	捏ね鉢	復元値、1/3残存する	26.5	－	(8.3)	長石粒・砂粒を含む	にぶい橙色	明黄褐色
19	40	20	SD15	149	常滑	壺	胴部	－	－	(7.5)	長石粒を含む	灰色	オリーブ灰色
19	41	20	SD17	1	常滑	捏ね鉢	底部の1/3が残存する	－	－	(4.3)	写真なし	橙色	橙色
19	42	20	SD15	35	須恵器	壺	底部	－	14.0	(7.0)		灰白色	灰白色
19	44	20	SD15	143	須恵器	蓋	宝珠	－	－	(2.2)		褐灰色	褐灰色
19	49	20	SD17	2	瀬戸	施り鉢	底部の1/3が残存する	－	－	(3.3)	微砂粒を含む	赤黒色	赤褐色

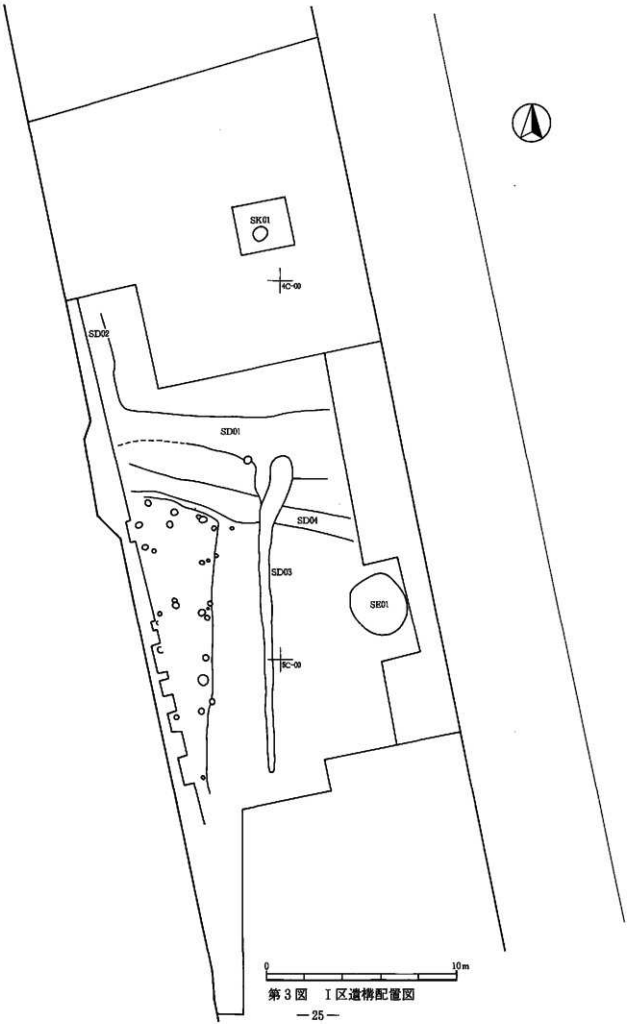
挿図	番号	図版	遺構番号	遺物番号	種別	器形		口径	底径	器高		色調内側	色調外面
19	50	20	ＳＤ２０	2	瀬戸	緑釉小皿	口縁部				微砂粒を含む	灰から灰オリーブ色	灰色
19	51	20	ＳＤ１６	1	土師器	内耳鍋	口縁部	–	–	(5.2)	砂粒を含む	明灰黒色	黒色
19	53	20	ＳＤ１５	60	滑石製石鍋	石鍋	口縁部	(20.6)	–	(4.5)	内外面に煤付着	灰色	灰から灰白色
19	54	20	トレンチ	2	滑石製石鍋	石鍋	底部	–	(20)	(2.7)	内外面に煤付着	青灰色	暗青灰色
20	10	17	ＳＨ２３	1	土師器	皿	ほぼ完形	13.2	5.4	3.0		灰黄色	にぶい黄褐色
20	11	17	ＳＫ０１	1	須恵器	杯	底部			(2.3)	永田不入窯産	褐灰色	褐灰色
20	52	20	ＳＨ２５	1	土製品	土錘		5.3	幅1.8			灰黄褐色色	灰黄褐色色
20	55	20	ＳＥ０６	16	常滑	捏ね鉢	砥石に転用	5.4	4.2	1.0		灰から暗灰黄色	灰色
20	56	20	ＳＤ０８	9	石製品		砥石	5.7	3.6	1.7	凝灰岩	にぶい黄色	淡灰褐色
20	57	20	トレンチ	2	石製品		砥石	長さ 7.5	幅 3.8	厚さ 2.0	凝灰岩	灰白色	白色
20	58	20	ＳＥ０１	1	石製品	硯		(8.6)	(3.0)		泥岩	暗灰色	暗灰色
20	59	20	ＳＨ０３		銭貨	別表							
20	89	26	８Ｃ－１Ｔ		銭貨	別表							
21	62	21	ＳＤ１５	2	瓦			10.8	14.0	2.7		暗青灰色	暗青灰色
21	63	21	ＳＤ１５	1	瓦			5.3	5.0	2.2		灰褐色	灰褐色
21	64	21	ＳＤ１５	1	瓦			7.0	5.0	2.7		灰白色	灰白色
21	65	21	ＳＤ１５	155	瓦			9.0	10.3	2.5		褐灰色	褐灰色
21	66	21	ＳＤ１５	1	瓦			7.0	7.0	2.3		にぶい橙色	にぶい橙色
21	67	21	ＳＨ２４	1	瓦			8.2	5.8	2.3		にぶい橙色	にぶい橙色
21	68	21	ＳＤ０１	29	瓦			7.5	6.5	2.3		灰色	灰色
21	69	21	１３Ｄ－１６	141	瓦			5.0	6.0	2.3		灰色	灰色
21	70	21	トレンチ内	139	瓦			8.5	10.0	2.5		にぶい黄橙色	灰褐色
21	71	21	１４Ｄ－０７	111	瓦			4.0	5.0	2.1		黒色	灰白色
22	72	22･23	ＳＥ０１	1	木製品	下駄		長さ 35.0	幅 17.2	高さ 13.7	無孔		
23	73	22･23	ＳＥ０１	2	木製品	下駄		34.4	17.4	13.8	無孔		
24	74	24	ＳＥ０２	50	木製品	井戸枠?		30.0	8.6	径8.4			
24	75	24	ＳＥ０２		木製品	杭先		18.5		7.0			
24	76	24	ＳＥ０４	5	木製品	井戸枠?		22.6	幅9.9	3.0	断面カマボコ形		
24	77	24	ＳＥ０４	2	木製品	井戸枠に再利用		50.3	幅9.5		断面四角、細い溝状の切り込みがある		
24	78	22･24	ＳＥ０７	13	木製品	えぶり	柄板	長さ 45.2	幅 13.5	厚さ 2.6	着柄角度約105°		
25	79	25	ＳＤ１５	144	木製品	曲げ物、薄板		16.5	3.9	0.6	短冊状		
25	80	25	ＳＤ１５	163	木製品	曲げ物、薄板		14.0	2.8	0.4	片面に黒漆塗り		
25	81	25	ＳＤ１５	164	木製品	織機か?		23.7	4.4	0.5			
25	82	25	ＳＤ１５	169	木製品	建築部材	棒状	22.6	3.8	2.2			
25	83	25	ＳＤ１５	112	木製品	曲柄?		15.5	10.0	2.2			
25	84	25	ＳＤ１５	134	木製品	建築部材	棒状	17.8	4.4	3.2			
25	85	25	ＳＤ１５	133	木製品	管状加工品		14.0		4.5			
25	86	24	ＳＤ１５	159	木製品	管状加工品		10.8		3.0			
25	87	24	ＳＤ１５	168	木製品	建築部材	棒状	54.0		3.4			
25	88	24	ＳＨ２３	3	木製品	大型板材		60.0	30.0	2.5			

6　その他の遺物（第18図，図版21・26）

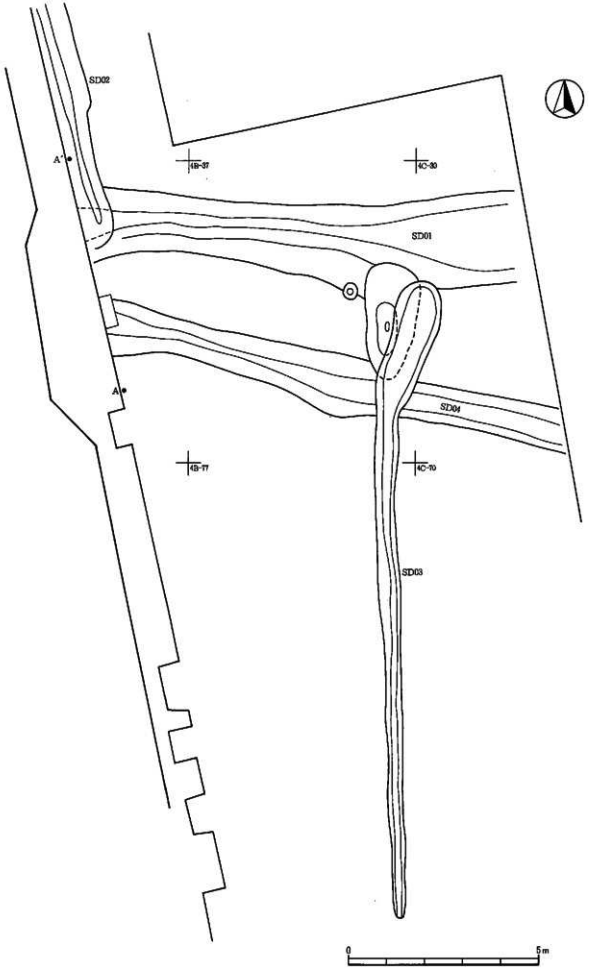
62は3Tトレンチから出土した瓦である。大きさは10.8cm×14cm×2.7cmである。色調は暗青灰色を呈する。63は13D−16から出土した瓦である。大きさは5.3cm×5cm×2.2cmである。色調は灰褐色を呈する。64は14d−07から出土した瓦である。大きさは7cm×5cm×2.7cmである。色調は灰白色を呈する。8C区のトレンチ内から渡来銭が錯銭の状態で17枚出土した。銭種は第3表のとおりである。周囲に遺構は確認されなかった。

第3表　出土銭貨観察表

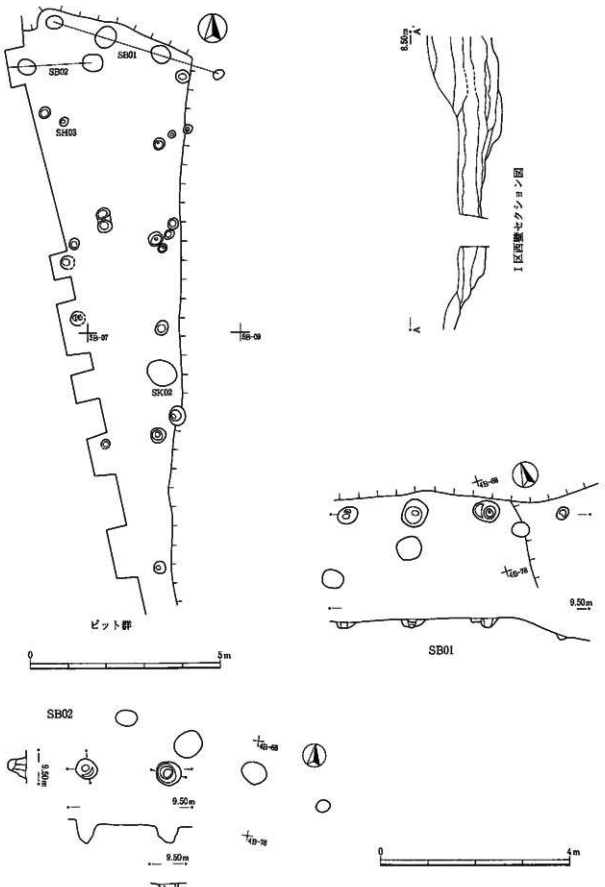
挿図	掲載番号	遺構	銭種	書体	初鋳年	縁外径（%）	縁内径（%）	郭外長（%）	郭内長（%）	縁厚（%）	肩厚（%）	重量（g）	備考
59	1	SH−03	皇宋通寶	楷書	1038	24.2	19.8	9.3	7.5	1.4	1	3.69	
59	2	SH−03	元祐通寶	行書	1086	24	20	9	6.6	1.4	0.9	3.13	
59	3	SH−03	元祐通寶	行書	1101	23.7	19	8.5	7.1	1.4	0.9	2.93	
89	1	8C−1T	政和通寶	隷書	1111	24.3	21	9.5	5.5	1.3	1	2.32	星形孔
89	2	8C−1T	宣和通寶	隷書	1119	25	21.5	7.2	6.8	1.3	1	3.43	
89	3	8C−1T	治平元寶	篆書	1064	24	20.2	7	6.3	1.4	1.2	3.57	
89	4	8C−1T	熙寧元寶	隷書	1068	23.5	19	7.5	6.5	1.2	1	3.49	
89	5	8C−1T	嘉祐通寶	楷書	1056	23.4	19.8	9	7.3	1.2	0.9	2.65	
89	6	8C−1T	無文銭			19.8	18.5	8	6.2	0.7	0.6	1.21	模鋳銭
89	7	8C−1T	聖宋元寶	行書	1101	23.8	18	9	7.5	1.1	1	3.05	
89	8	8C−1T	開元通寶	楷書	621	24.1	20.3	8.2	7	1.3	0.9	3.09	
89	9	8C−1T	熙寧元寶	篆書	1068	24	21.5	9.3	6.8	1.4	0.8	3.6	
89	10	8C−1T	熙寧元寶	楷書	1068	23.3	19.5	9	6.4	1.4	1	3.32	
89	11	8C−1T	嘉祐通寶	楷書	1056	24.4	21	9.6	7.5	1.5	0.6	2.48	
89	12	8C−1T	皇宋通寶	楷書	1038	24.3	19	8.5	7.2	1.2	1	3.5	
89	13	8C−1T	元豊通寶	行書	1078	24	18.5	8.3	7	1.3	0.9	3.56	
89	14	8C−1T	皇宋通寶	楷書	1038	24.3	19.6	9	7.5	1.4	1.1	3.93	
89	15	8C−1T	元祐通寶	篆書	1086	24.2	20.3	9	7.6	1.4	1.1	3.51	
89	16	8C−1T	元祐通寶	篆書	1086	24	19.3	7.5	6.3	1.1	0.7	2.64	
89	17	8C−1T	元祐通寶	行書	1086	24.1	20.5	8.7	6.6	1.7	1.2	3.43	



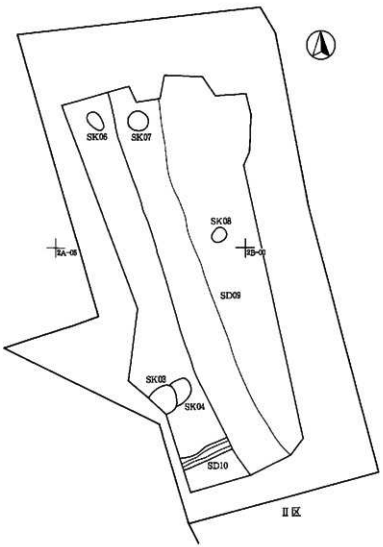
第3図　Ⅰ区遺構配置図

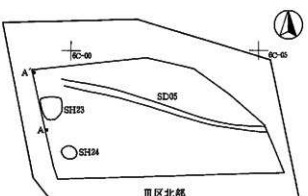


第4図　Ⅰ区溝状遺構配置図

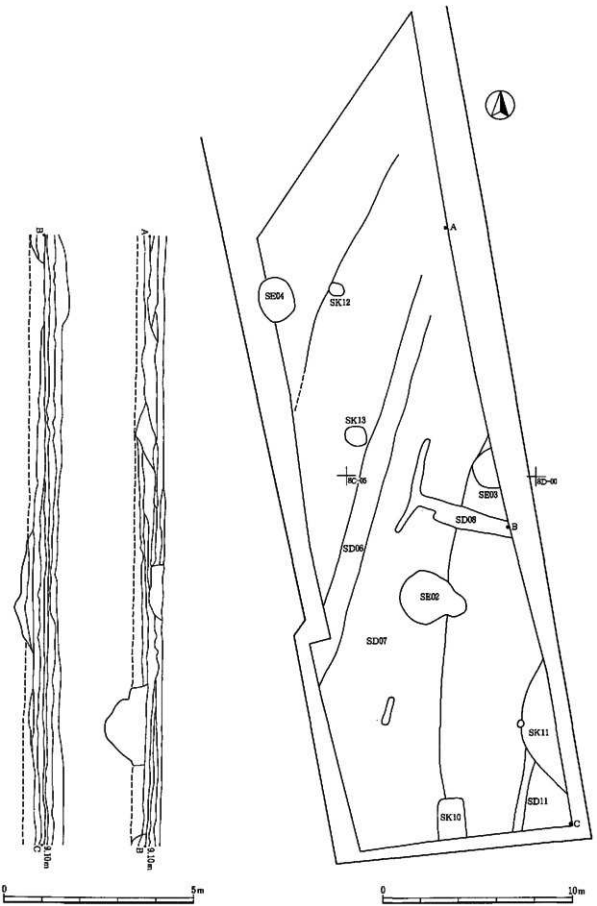


第５図　Ⅰ区掘立柱建物跡及びピット群

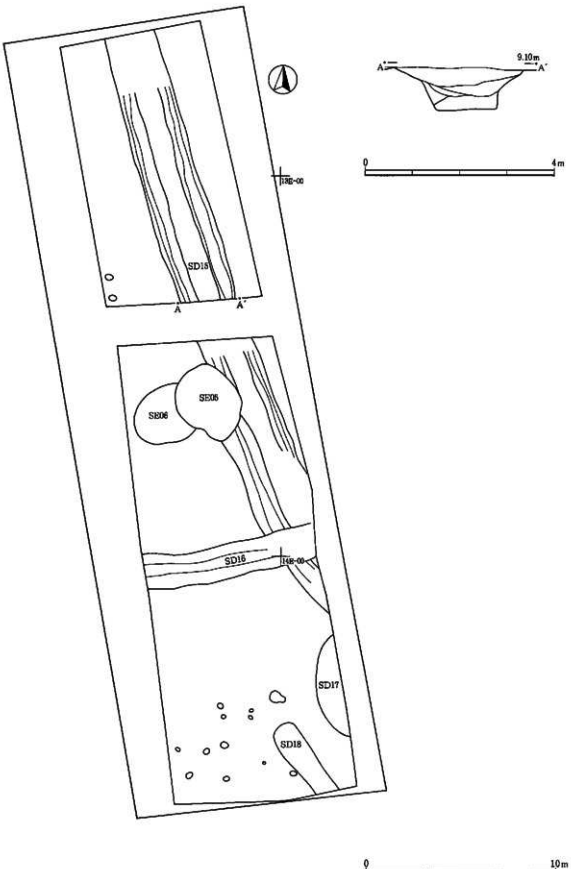




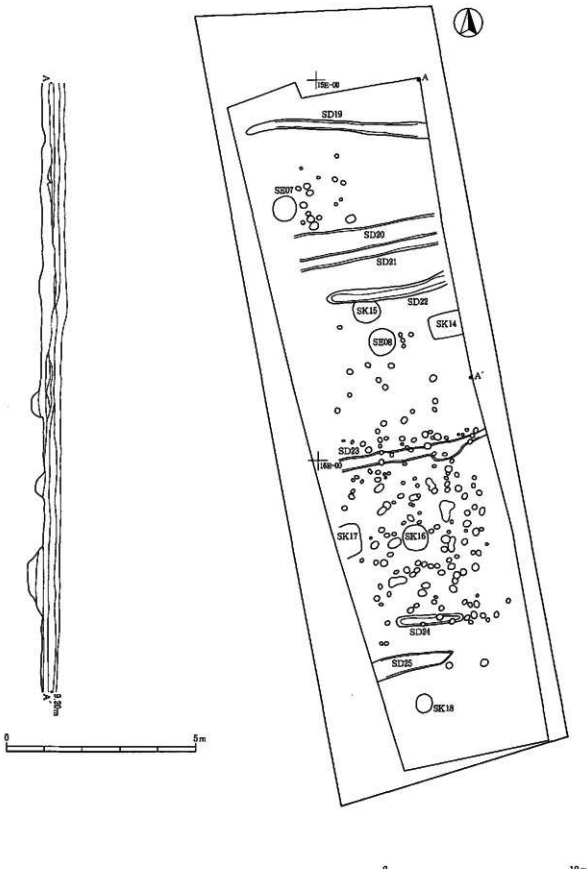
第６図　Ⅱ・Ⅲ区遺構配置図


A
B
C
SE04
SK12
SK13
SE03
SD06
SD08
SE02
SD07
SK11
SD11
SK10
5m
10m

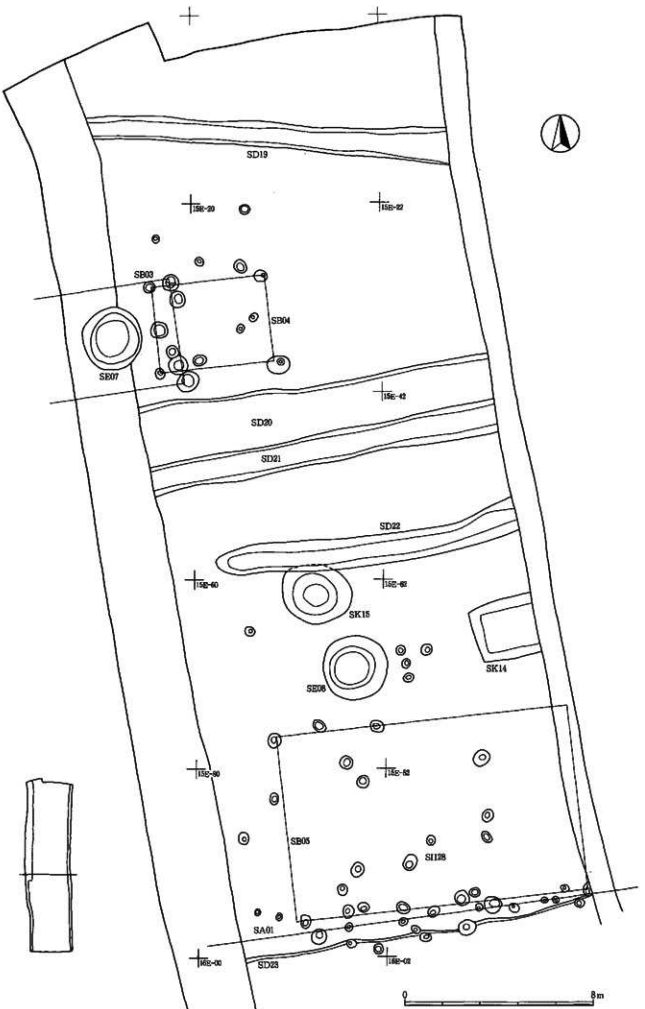
第7図　Ⅲ区遺構配置図



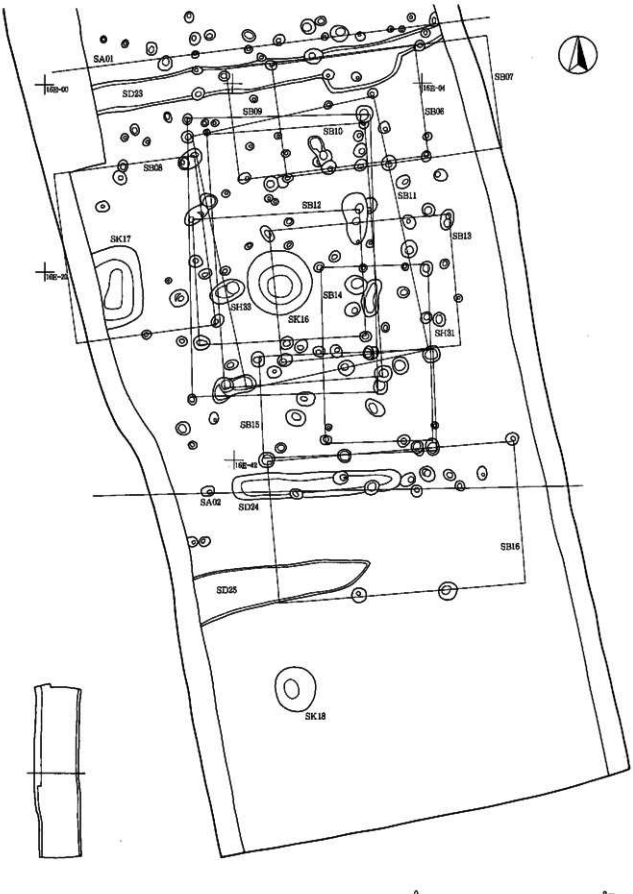
第８図　Ⅳ区遺構配置図


A
A'
9.20m
0
5m
15E-00
SD19
SE07
SD20
SD21
SD22
SK15
SK14
SE08
SD23
16E-00
SK17
SK16
SD24
SD25
SK18
0
10m

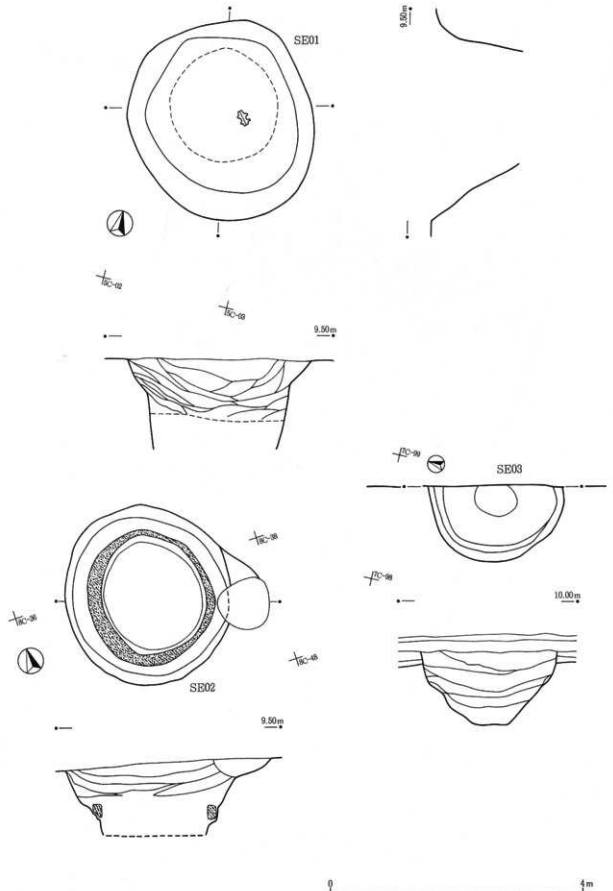
第９図　Ｖ区遺構配置図



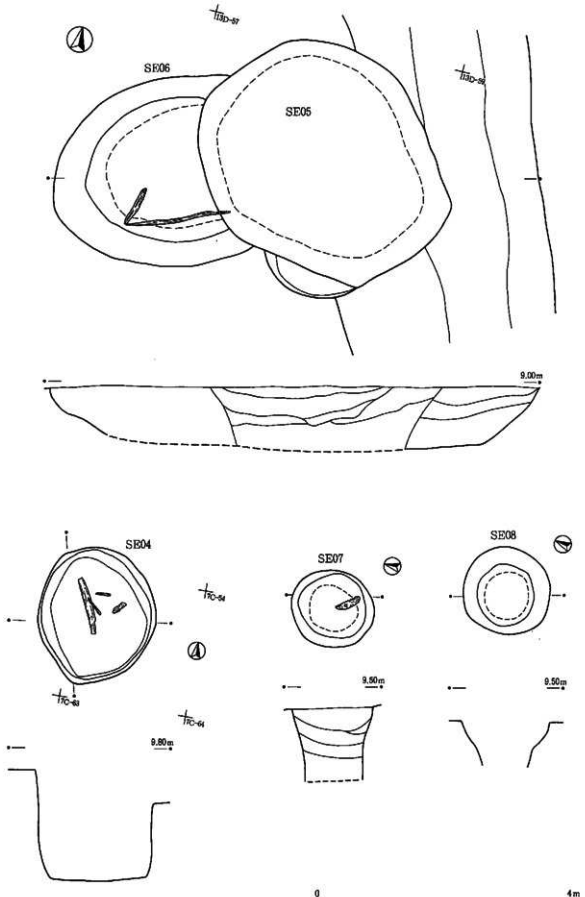
第10図　V区掘立柱建物跡(1)



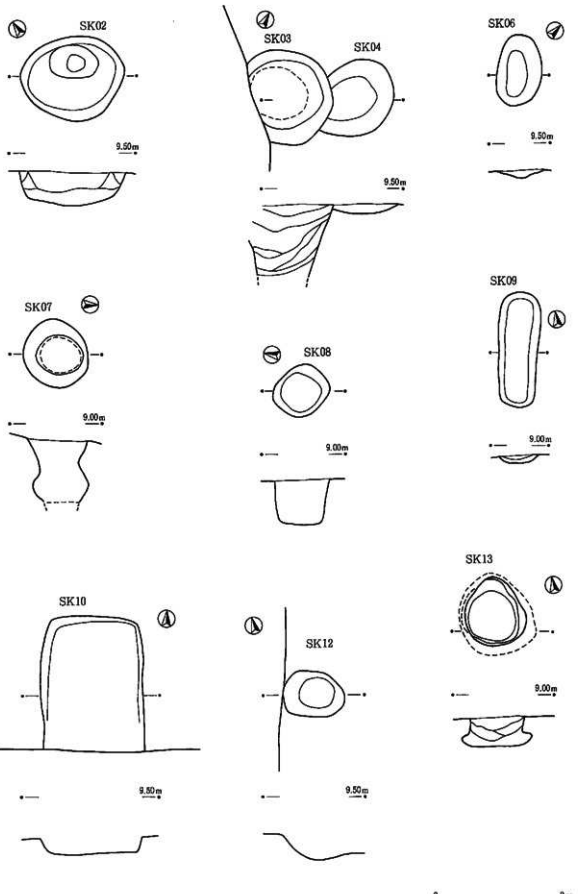
第11図　Ⅴ区掘立柱建物跡(２)


SE01
9.50m
TBC-02
TBC-03
9.50m
TBC-09
SE03
TBC-09
10.00m
TBC-36
TBC-36
TBC-05
SE02
9.50m
0
4m

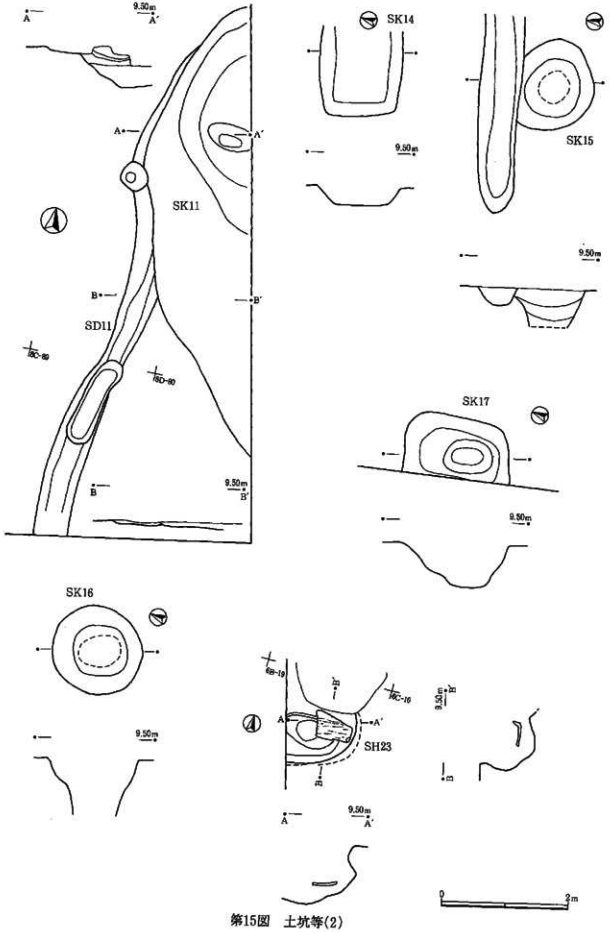
第12図　井戸状遺構(1)



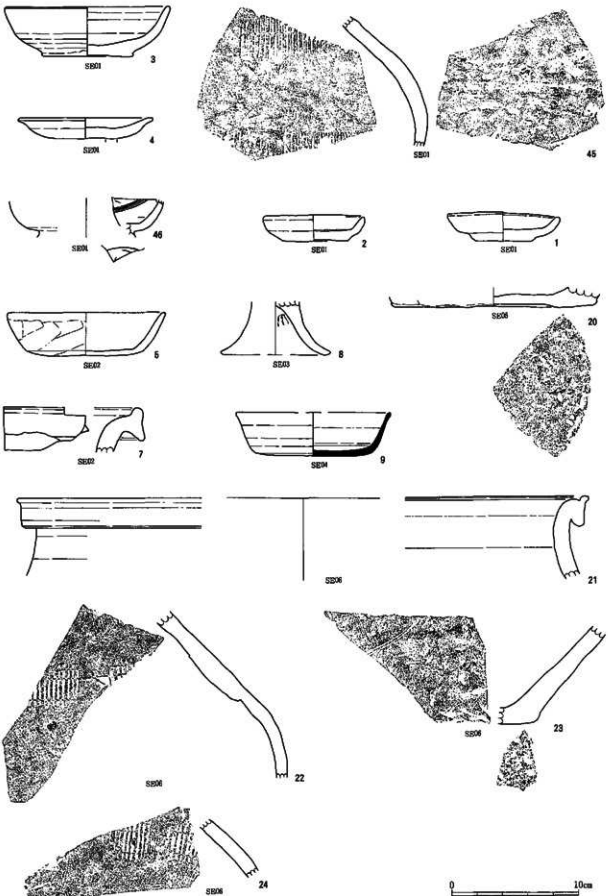
第13図　井戸状遺構(2)


SK02
9.50m
SK03
SK04
9.50m
SK06
9.50m
SK07
9.00m
SK08
9.00m
SK09
9.00m
SK10
9.50m
SK12
9.50m
SK13
9.00m
0
2m

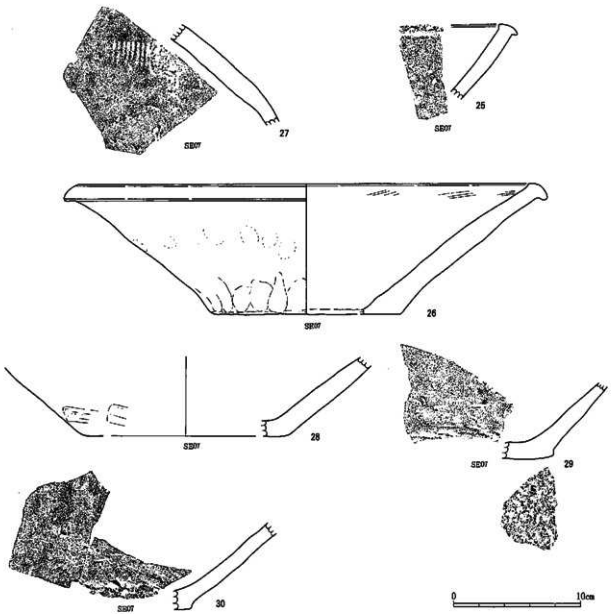
第14図　土坑等(1)



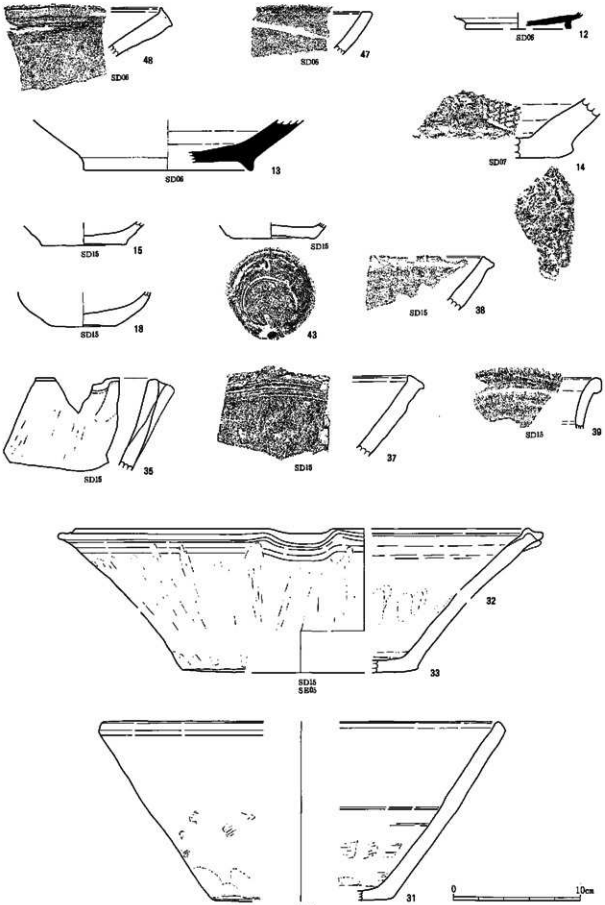
第15図　土坑等(2)


SE01
3
SE04
4
SE01
45
SE04
46
SE01
2
SE01
1
SE06
20
SE02
5
SE03
8
SE02
7
SE04
9
SE06
21
SE06
22
SE06
23
SE06
24
0
10cm

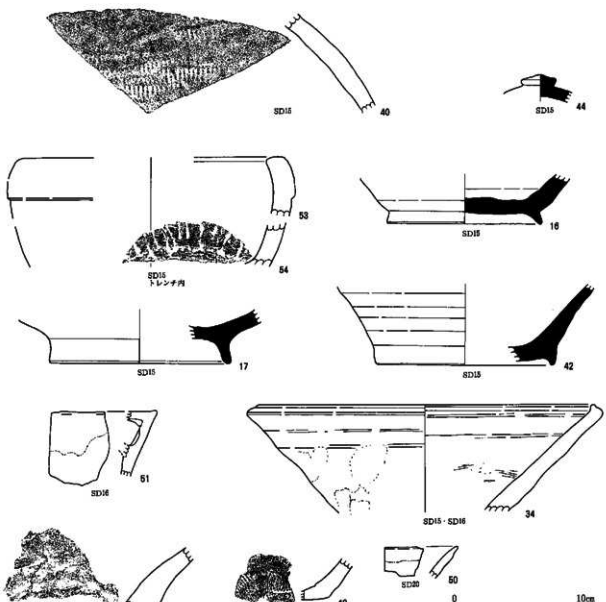
第16図　出土遺物(1)



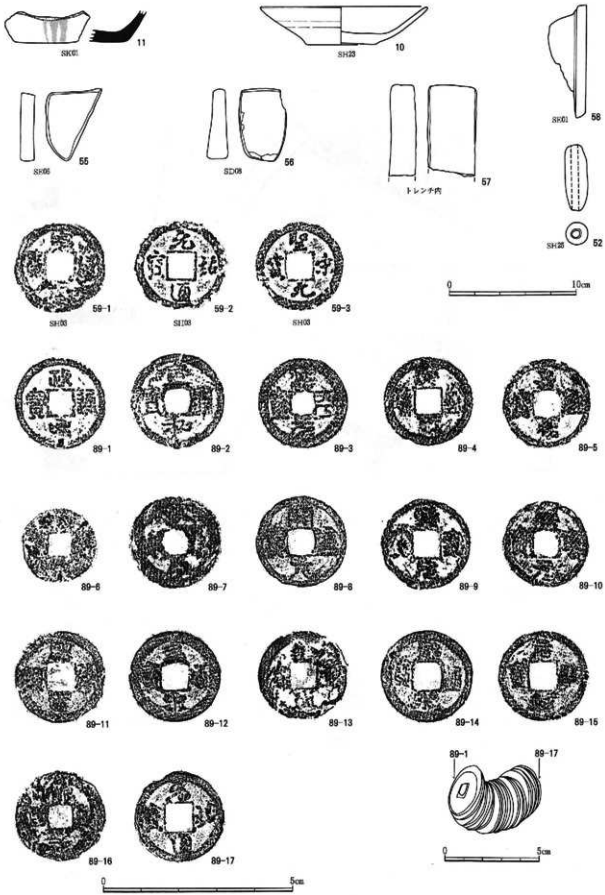
第17図　出土遺物(2)


48
SD06
47
SD06
12
SD06
13
SD06
14
SD07
15
SD15
SD15
43
38
SD15
18
SD15
35
SD15
SD15
37
39
SD15
32
33
SD15
SB35
31
SD15
0
10cm

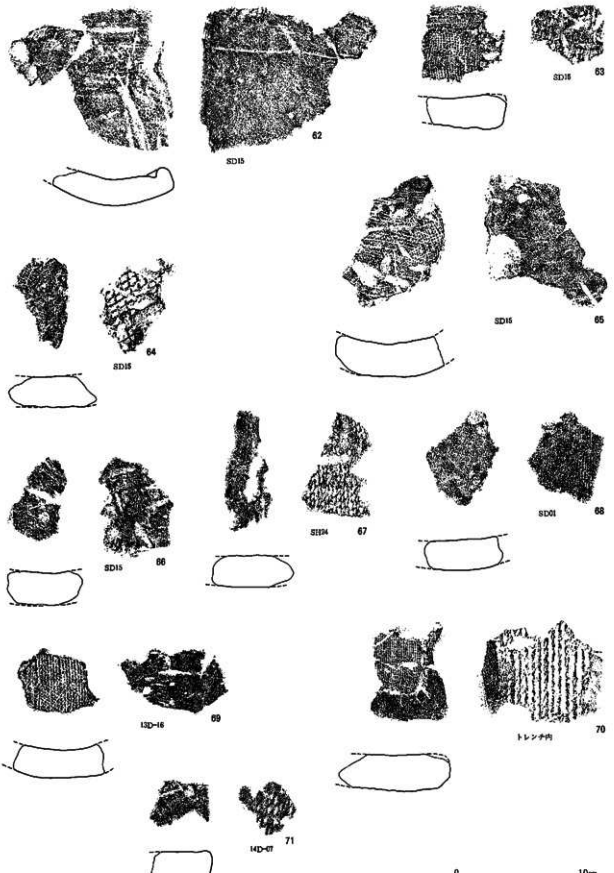
第18図　出土遺物(3)


SD15
40
SD15
44
53
54
SD15
トレンチ内
SD15
16
SD15
17
SD15
42
SD16
51
SD15・SD16
34
SD16
41
SD17
49
SD20
50
0
10cm

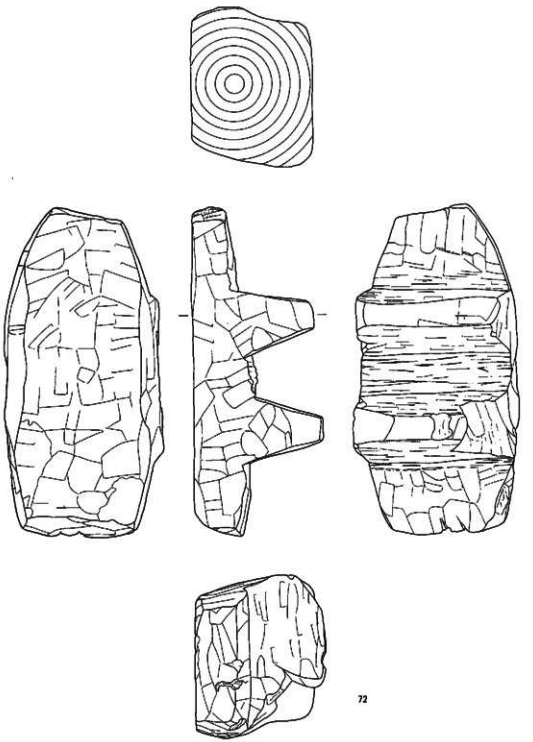
第19図　出土遺物(4)


SK01
11
SH23
10
SK01
58
SK06
55
SD08
56
トレンチ内
57
SH23
52
0
10cm
SH00
59-1
SH00
59-2
SH00
59-3
89-1
89-2
89-3
89-4
89-5
89-6
89-7
89-8
89-9
89-10
89-11
89-12
89-13
89-14
89-15
89-16
89-17
0
5cm
89-1
89-17
0
5cm

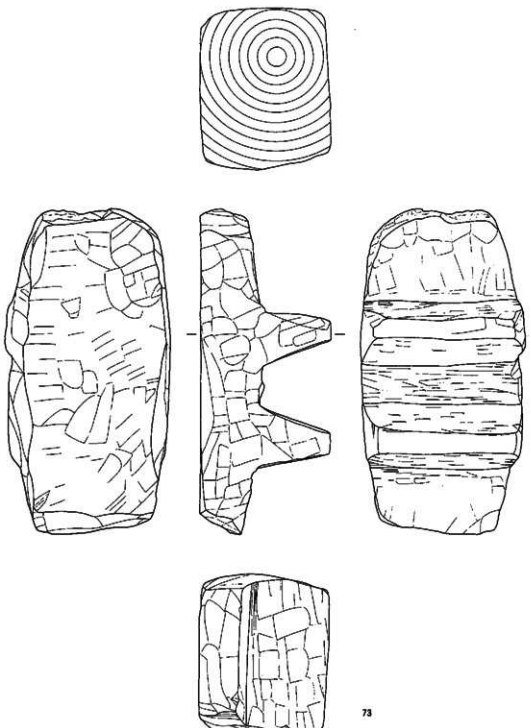
第20図　出土遺物(5)


SD15
62
SD15
63
SD15
64
SD15
65
SD15
66
SH34
67
SD01
68
12D-16
69
トレンチ内
70
14D-07
71
0
10cm

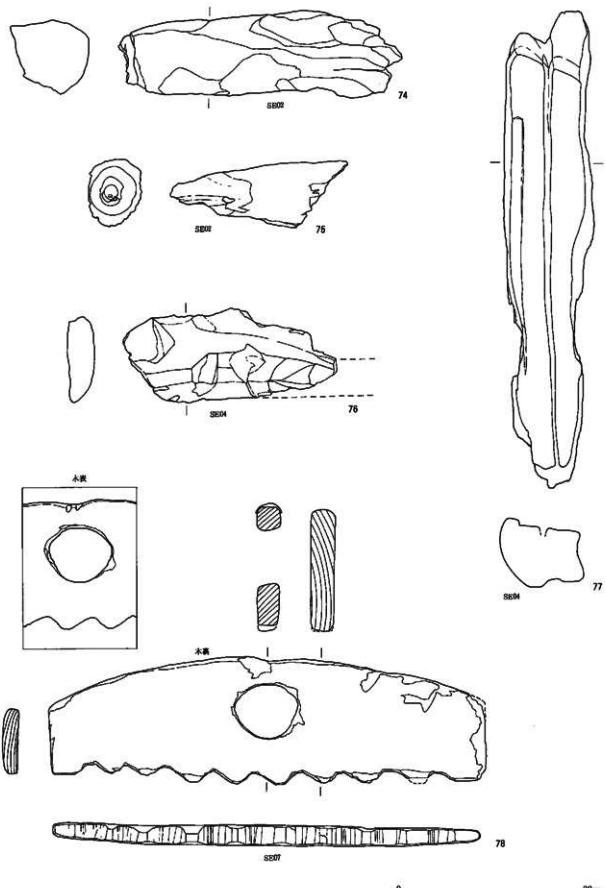
第21図　出土瓦



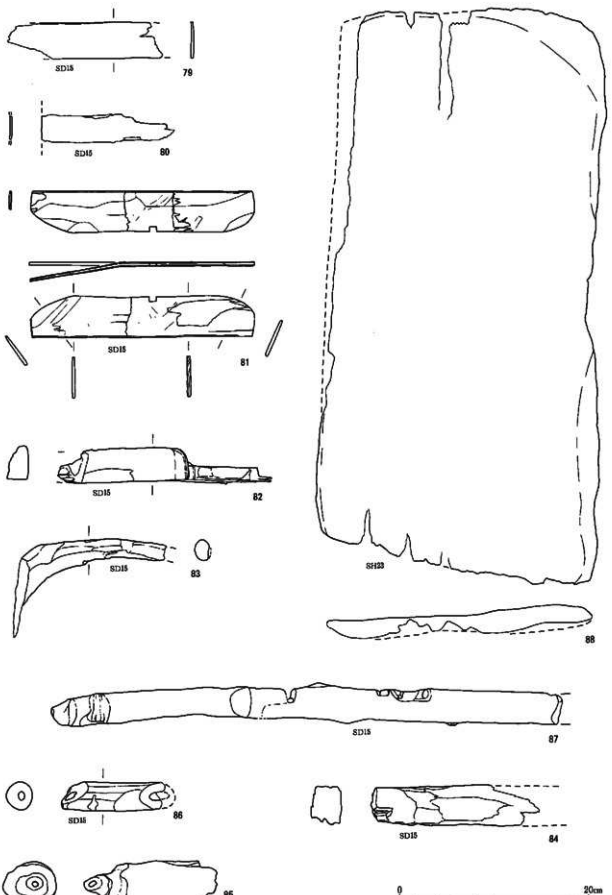
第22図　ＳＥ０１出土木製品(1)



第23図　ＳＥ０１出土木製品(2)



第24図　井戸状遺構出土木製品


SD15
79
SD15
80
SD15
81
SD15
82
SD15
83
SH33
88
SD15
87
SD15
86
SD15
84
SD15
85
0
20cm

第25図　出土木製品

第3章　ま　と　め

第1節　検出された遺構について（第26図）

西野遺跡及びその周辺は，郡衙推定地を含む遺跡群として知られ，昭和59年（1984）に国道297号市原バイパス建設事業に伴う発掘調査が行われ，以来，千葉県教育委員会による官衙関連遺跡確認調査や，今富地区から西野地区に及ぶ大規模な県営ほ場整備事業などにより，幾度かの調査が実施されている。昭和59年の国道建設に伴う調査では，竪穴住居跡４軒，掘立柱建物跡８棟，井戸６基，溝30条，土坑８基が検出されている。これは，今回の調査地区より市道交差点を挟んだ北側に位置する地区である。検出された掘立柱建物跡は，中央部に６棟，南側調査区に２棟であった。中央部の建物はいずれも桁行方向は東西である。このうちのSB1052は，方形で大型の柱穴を持つ２間×３間の建物である。南部の建物は２棟とも桁行方向が南北でやや西に振れており，中央部のものとは様相が異なる。

溝は東西方向に走る大溝が特徴的である。この溝は上端幅が3.8ｍで，深さも1.9ｍの規模である。出土した土器から９世紀後半には埋没したものと考えられる。

井戸３基は中央部の南東側で検出され，そのうち１基には，井戸枠が３段から４段残されており，板材を井桁に組み合わせた様子が見て取れた。３基の井戸は，８世紀後半から９世紀中頃の時期に順次掘削，埋戻しを繰り返したことが想像される。井戸の構築方法や区画の大溝が注目され，この区域を郡衙に属する厨院であろうと推定している[1]。

その結果を受けて県教育委員会による郡衙関連遺跡確認調査が実施され，主要遺構確認を目的とした西野遺跡第１次発掘調査を実施している。バイパス調査地点から西方へ100ｍ程の地区である。調査の結果，熊野神社と徳蔵寺の間のトレンチから８世紀後半から９世紀前半期の総柱建物跡１棟が発見されている[2]。さらに，西野地区の西に接する小折・十五沢地区において第２次調査が実施され，そこでは溝を伴った大規模な井戸１基が検出された[3]。

平成７年に調査された西野下田遺跡は，バイパス調査区の北西に隣接した地域で，10尺間隔で並ぶ柵列状の遺構や掘立柱建物跡の柱穴の検出により，西野遺跡の遺構群の北限とする意見も聴かれる[4]。

平成12年からは，ほ場整備等に伴う発掘調査が順次進められており，西野遺跡もＡ区からＤ区の４地区が調査が実施された。なかでも，Ｂ地区は今回報告した調査区域の西方100ｍ程の地区で，掘立柱建物跡５棟以上，土坑，溝状遺構などが検出されている。掘立柱建物跡は西野の集落に寄った，標高の比較的高い地域に集中している。このうち２棟は西側に庇を設けている。南側の１棟は規模も大きく，柱穴も方形でしっかりとしている。これらの建物はいずれも南北棟で，西に15度ほど振れている。出土した土師器は８世紀後半のものである[5]。

平成13年及び平成14年には，国道297バイパスと交差して，権現堂地区から西野地区へ通じる市道の拡幅に伴う調査が実施された。この調査では西野遺跡Ｂ地区に隣接する部分も含まれており，そこでは掘立柱建物跡が８棟検出され，南北棟は柱穴の規模も大きく，顕著な版築が見られることが特徴であり，軸が西に振れていることもＢ地区と共通している[6][7]。

第２節　出土遺物について

今回の調査区域からは，18基の井戸や25条の溝，２条の道路跡，掘立柱建物跡14棟，柵列２条，ピット群が検出されているが，掘立柱建物跡２棟は古代に属するが，他は全て中世の時期の所産であると考える。出土した遺物のなかには，奈良・平安時代の土師器や須恵器も見受けられるが，みな常滑産陶器などに伴って出土しており，遺構の時期としては，中世を選択せざるをえない。

出土した陶器の大部分は，常滑産である。器種としては，捏ね鉢と甕といった日常の調理・貯蔵用品がほとんどである。これらの製品を観察すると，甕については，口縁部が単純な折り返しではなく，やや発達した断面が「N」字状になったものが見られる。これを，常滑窯製品の編年（中野編年）に照らし合わせると，６aから６b形式のものと判断できる。捏ね鉢についても同様に６aから９形式程度までが見られるようである。これは，年代的にいうと13世紀中頃から15世紀初頭頃に比定されるもので，この時期は，日常の貯蔵・調理用国産陶器が常滑窯産の大型甕や捏ね鉢に独占されるようになった時期である。このことは，前述したとおり，今回の調査で出土した土器の大半が常滑産の甕や捏ね鉢であることと矛盾しない。さらに，出土遺物の中に石鍋が存在することも，県内におけるこの時期の特徴を示す事例に適合している。

ＳＥ０１から出土した下駄は，その出土状況から大変興味深い資料である。秋田裕毅氏は遺跡出土の下駄の集成を行い，下駄と共伴する遺物の関係等から特に井戸から出土する下駄が祭祀や呪術にかかわる遺物である可能性を指摘する[5]。本遺跡出土の下駄も井戸からの出土であり，台部を合わせた状態で出土している点や緒孔を有しない点は，祭祀品として井戸底に程近い位置に置かれていた可能性が考えられる。井戸の祭祀としては，堰井の祭祀があり，現代でも「息抜き」と称して青竹等を立てて井戸を埋める慣行がそれで，井戸の廃棄に伴い，水神，井戸神などのカミの出入りを助けるために行うと考えられている。秋田氏は井戸から出土する下駄を，井戸の廃棄にあたり，カミが履いて井戸から抜け出ることを願ったものと考えている[6]。ＳＥ０１から出土した下駄が緒孔を有しない点は未製品というよりも，祭祀品としての可能性を示唆するものと考えられる。さらに，その出土状況も祭祀品を井戸に投入，廃棄したと捉えるよりも，井戸に埋置したものと捉える方が自然であり，祭祀の一形態を示しているものと考えられるのではなかろうか[10]。

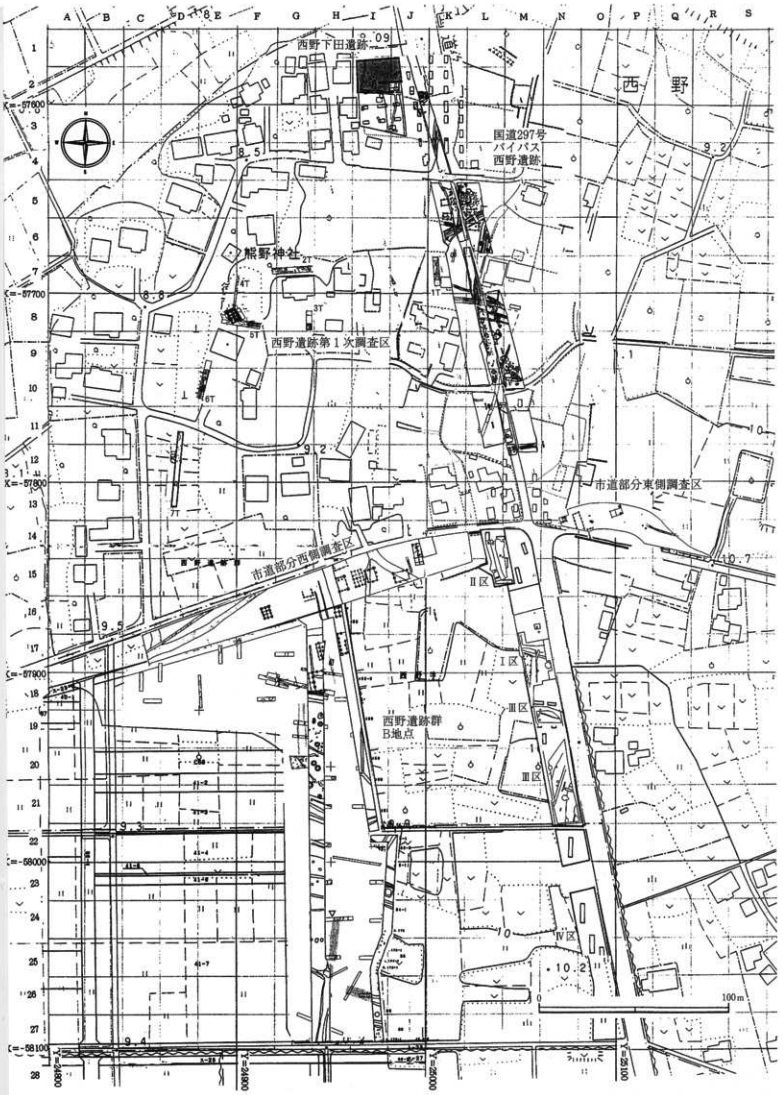
銭貨が総数で20枚出土した。銭種は表３のとおりであるが，唐銭と北宋銭のみで，最も古いものは開元通寶で，最新銭は宣和通寶である。20点もの出土でありながら，明銭，南宋銭が１枚も出土していないことは特記でき，15世紀中頃以前に埋没したものと考えられる。

注１　今泉潔・山口典子　1989「西野遺跡・白山遺跡・村上遺跡」『千葉県文化財センター調査報告第161集』　財団法人千葉県文化財センター
２　高梨俊夫　1996『市原市西野遺跡第１次発掘調査報告書』　千葉県教育委員会
３　渡辺高弘　1997『市原市西野遺跡第２次発掘調査報告書』　千葉県教育委員会
４　田所　真　1998「西野下田遺跡調査報告」『市原市文化財センター年報平成９年度』　財団法人市原市文化財センター
５　牧野光隆　2001「西野遺跡Ａ地点」『市原市文化財センター年報平成10年度』　財団法人市原市文化財センター
６　小川浩一　2002「西野遺跡群」『第17回市原市文化財センター遺跡発表会要旨平成13年度』　財団法人市原市文化財センター
　　小川浩一　2003「西野遺跡」『第18回市原市文化財センター遺跡発表会要旨平成15年度』　財団法人市原市文化財センター
７　伊藤智樹　2003「海上郡衙を考える」『市原地方史研究』第20号　市原市教育委員会

8　秋田裕毅　2002『ものと人間の文化史104　下駄　神のはきもの』　㈱法政大学出版局

9　注1に同じ。

10　秋田氏は井戸内から出土する容器について，カミの一時的な避難場所としての機能を考えておられる。本遺跡出土の下駄の出土状況からさらに想像を逞しくするならば，はき易く並べられた状態ではなく，敢えて台部を合わせ，横位の状態で埋置している点は，合わせた台部の間に出来たであろう僅かな空間がカミの退避場所であり，合わせて履くときに触れる台部の穢れを嫌ったものと考えられないか。



第26図　西野遺跡主要部遺構検出状況（1:2,000）『市原地方史研究第20号』より改変使用

写真図版

遺跡周辺の航空写真

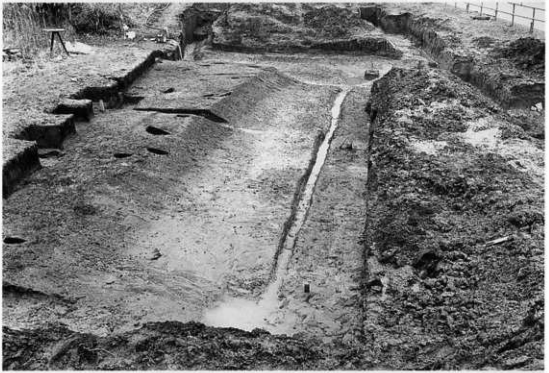
図版 2

調査区近景 1

調査区近景 2

調査区近景 3

調査区航空写真



Ⅰ区全景（南から）

Ⅰ区全景（北から）

図版 4

調査風景

Ⅱ区全景（東から）

Ⅱ区全景（南から）

Ⅲ区航空写真

Ⅲ区全景（北西から）

Ⅲ区全景（南東から）

Ⅲ区近景（南西から）

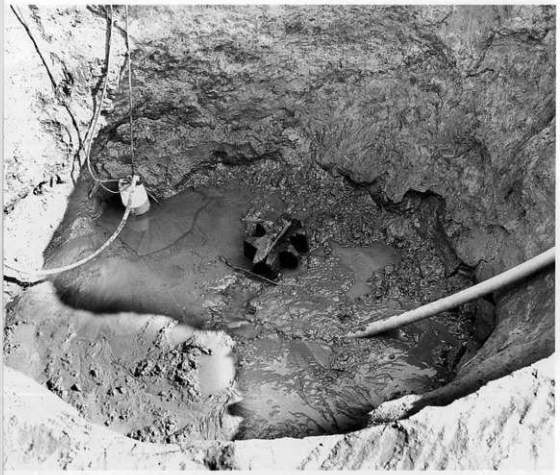
Ⅳ区航空写真

Ⅳ区近景（南東から）

V区航空写真

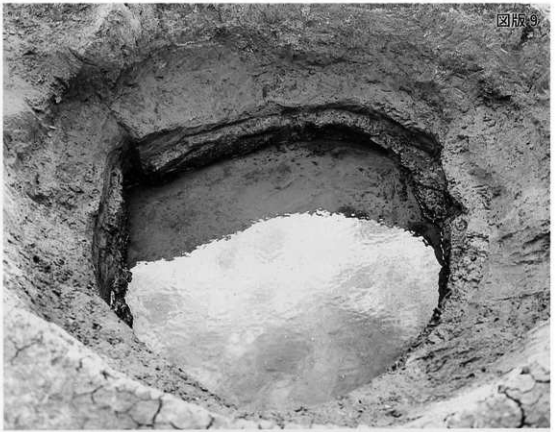
V区全景（北から）

V区全景（南から）



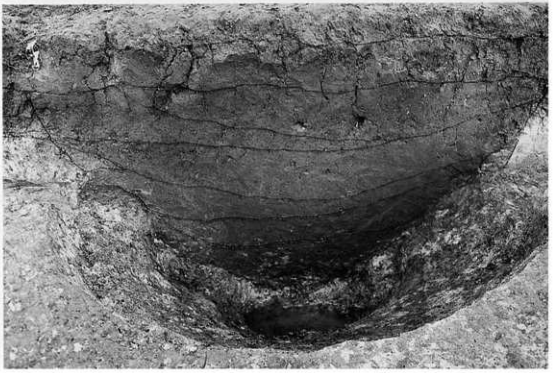
SE01 木製品出土状況

SE01



SE02

SE02 貝ブロック



SE03

SE04

SE04 遺物出土状況

SE05

SE06

SE07 木製品出土状況

SE08

図版12

SH23

SH23 木製品出土状況

SH24

SK01

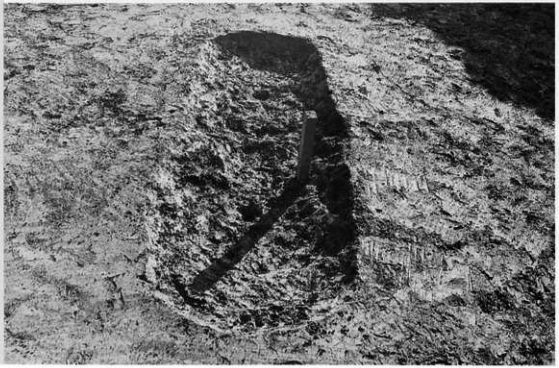
SK03

SK03 · SK04

図版14

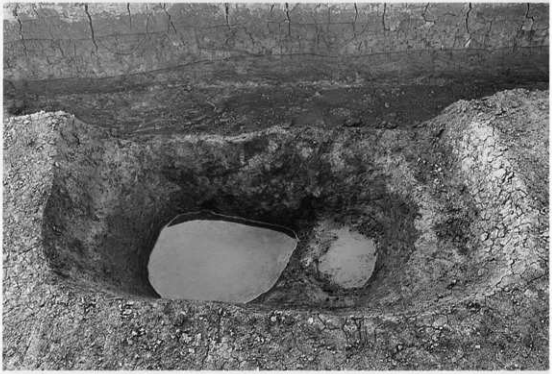
SK07

SK08



SK09

SK16



SK17

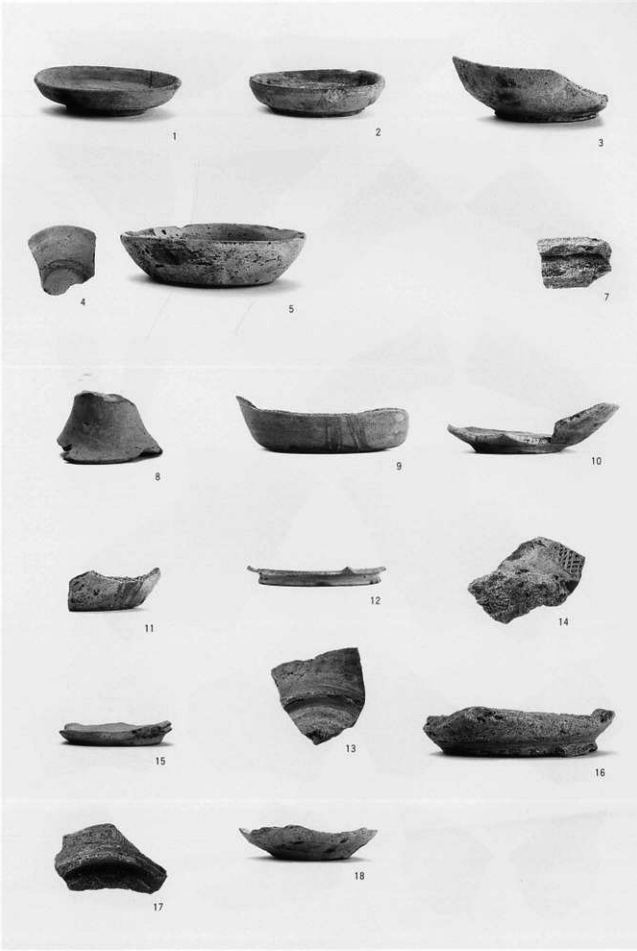
SK18

図版16

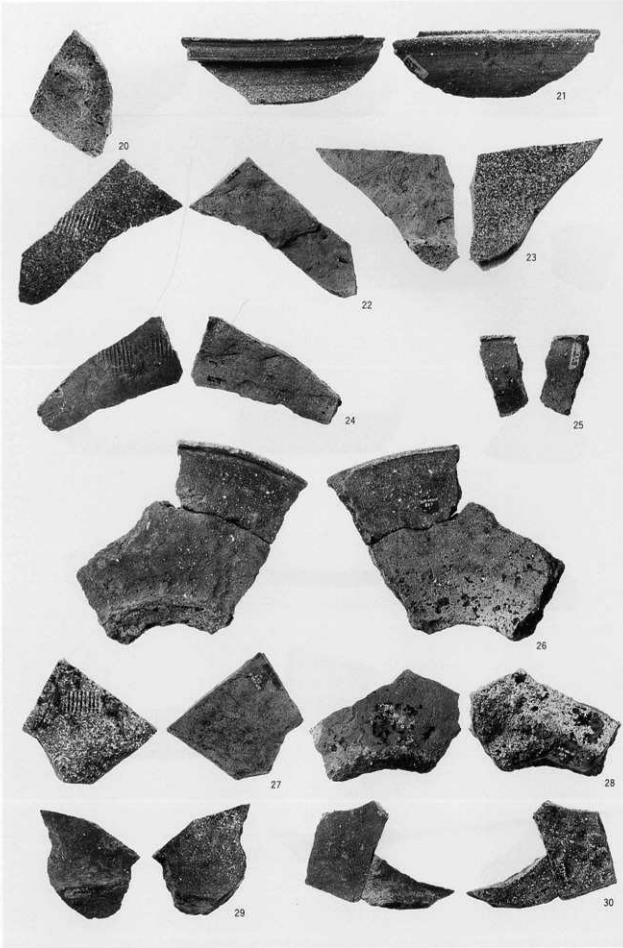
SD06 · SD07

SB01

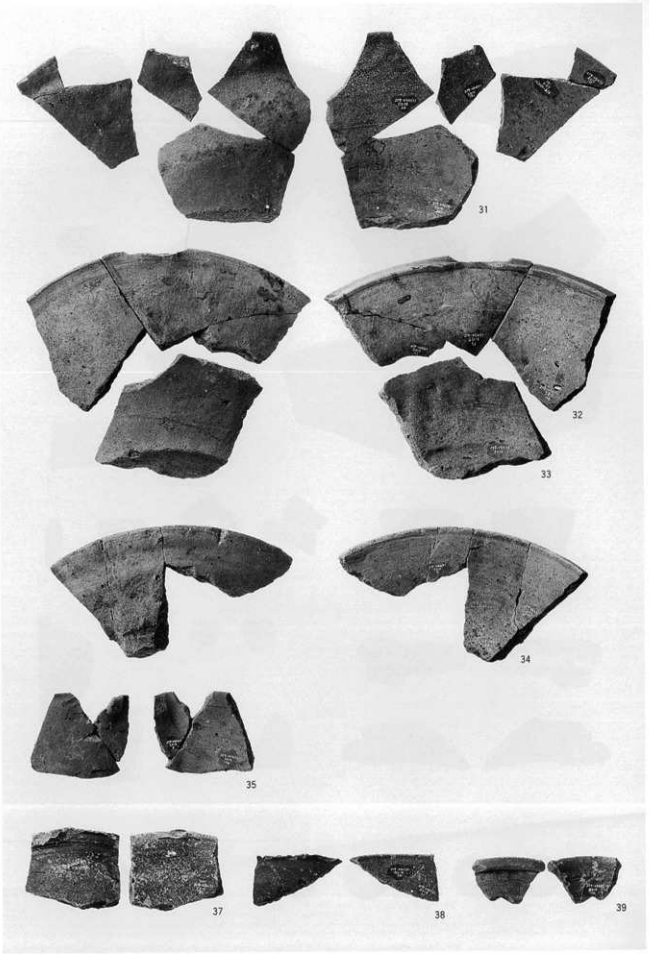
SB02



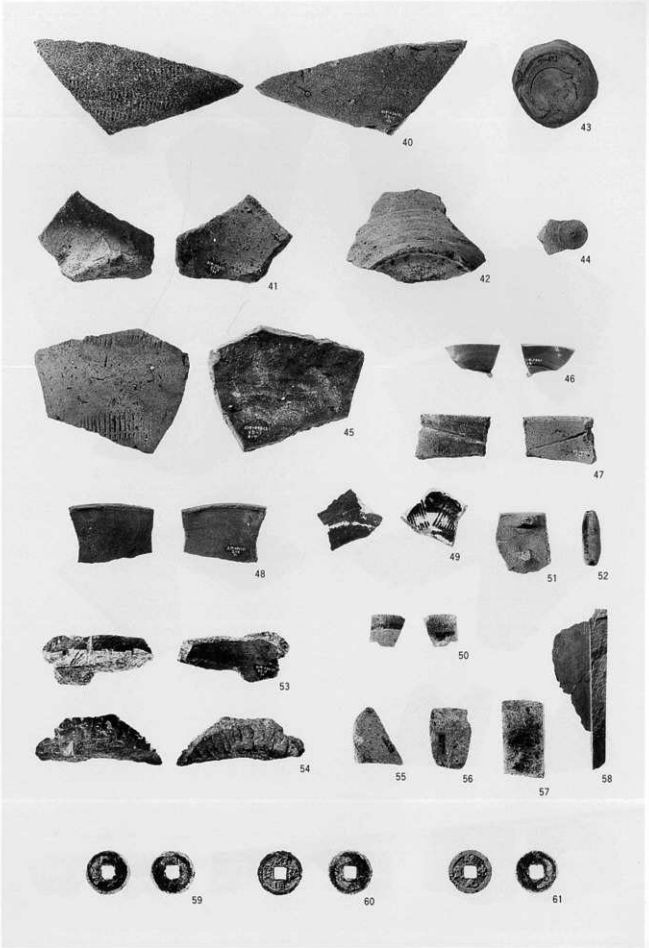
出土土器1



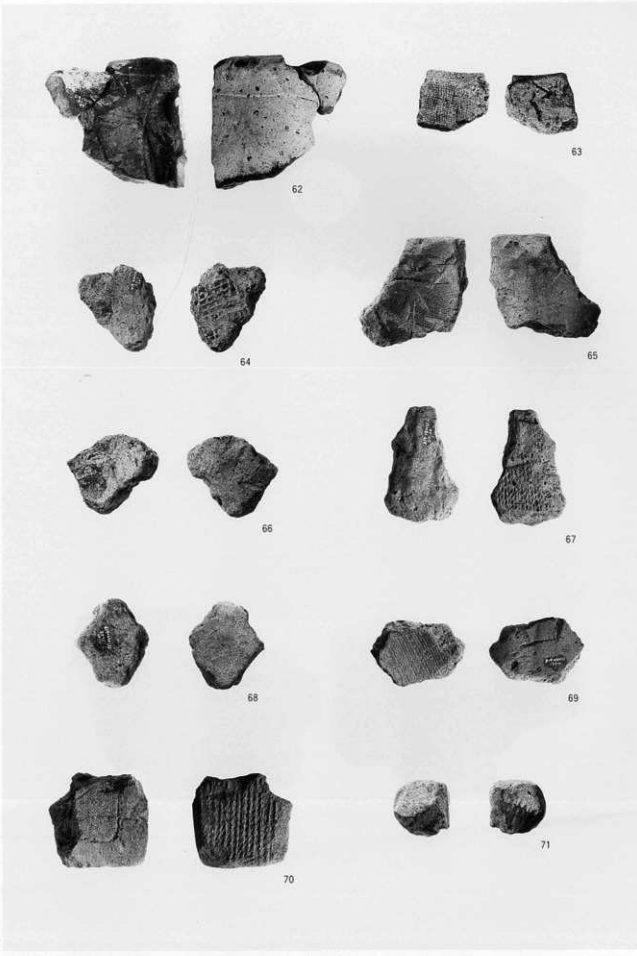
出土土器 2



出土土器3



出土遺物



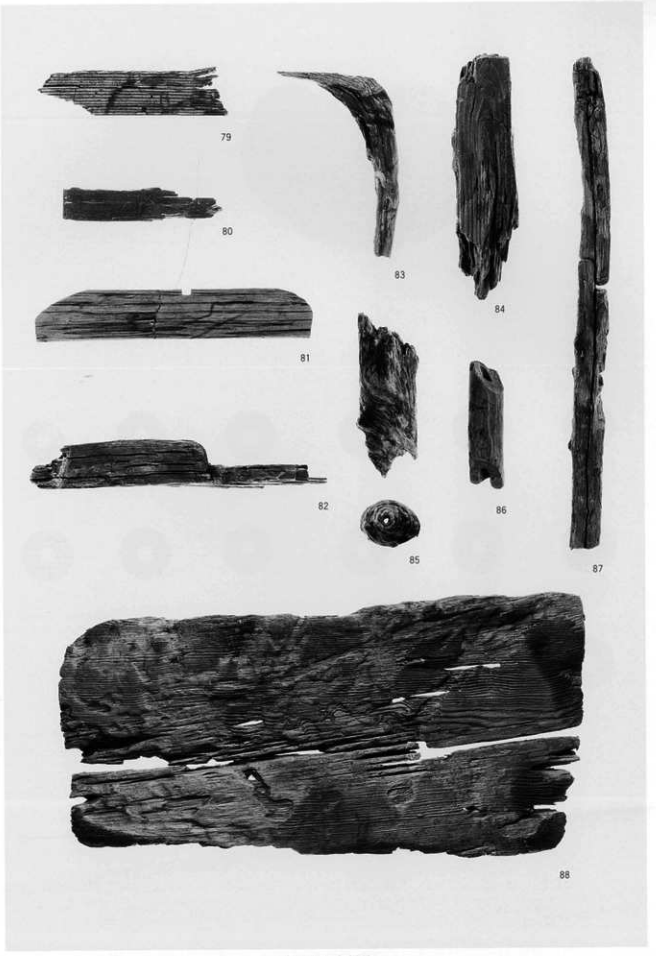
出土瓦

SE07 出土柄振

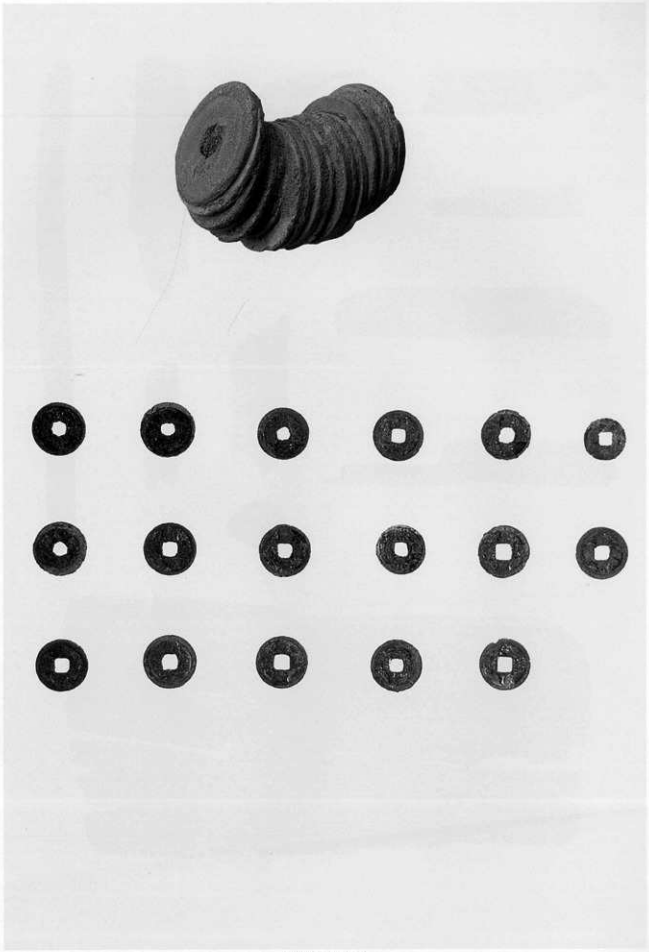
SE01 出土木製品

SE01 出土木製品

井戸状遺構出土木製品



遺跡出土木製品



遺跡出土銭貨

報告書抄録

ふりがな	いちはらしにしのいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	市原市西野遺跡
副書名	国道道路改築委託埋蔵文化財調査報告書Ⅰ
巻次	
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第523集
編著者名	土屋潤一郎
編集機関	財団法人　千葉県文化財センター
所在地	〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809-2　TEL 043-422-8811
発行年月日	西暦2005年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	経緯度 北緯	経緯度 東経	調査期間	調査面積	調査原因
西野遺跡（にしのいせき）	千葉県市原市西野（ちばけんいちはらしにしの）字中村439-1ほか（あざなかむら）	12219	030	35度 28分 39秒	140度 6分 34秒	20010109～ 20010131	1,206㎡	道路（国道297号バイパス）改築に伴う発掘調査
						20011001～ 20011226	5,676㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項
西野遺跡	包蔵地	奈良・平安時代		土師器・須恵器	海上郡衙と直接関連すると思われる遺構は検出されなかった。
	集落跡	古代	掘立柱建物跡　2棟	陶器・磁器・木製品	
		中世	井戸　18基 溝状遺構　25条 道路跡　2条 掘立柱建物跡　14棟 柵列　2条 ピット　200基以上		

千葉県文化財センター調査報告第523集

市原市西野遺跡

－国道道路改築委託埋蔵文化財調査報告書Ⅰ－

平成17年３月25日発行

編　集　財団法人　千葉県文化財センター

発　行　千葉県県土整備部
千葉県千葉市中央区市場町1-1
財団法人　千葉県文化財センター
千葉県四街道市鹿渡809-2

印　刷　大和美術印刷株式会社
千葉県木更津市潮浜2-1-10